

# 令和8年度 山梨県・忠清北道 中学生 国際交流事業 報告書

日 時 令和8年7月27日（月）～31日（金）  
場 所 山梨県内  
参加者 本県中学生32人、忠清北道中学生32人



## ○交流事業全体の日程

7月27日（月） 対面式・歓迎会

7月28日（火） 富士山五合目、リニア実験センター、笛吹市内散策

7月29日（水） やまなし伝統工芸館、桃狩り、身延山久遠寺

7月30日（木） 浅川伯教・巧兄弟資料館、ほうとう作り  
グループ対抗卓球大会、グループ発表・お別れ会

7月31日（金） 忠清北道一行成田ホテルへ送迎

# 1日目:対面式、歓迎会



## 2日目：富士山五合目、リニア実験センター 笛吹市内散策



# 3日目:やまなし伝統工芸館、桃狩り 身延山久遠寺



# 4日目：浅川伯教・巧兄弟資料館、ほうとう作り、卓球大会、グループ発表・お別れ会



## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

笛南中 3年 No1

氏名 渡辺万菜

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟資料館では、浅川伯教・巧兄弟が日本統治下の朝鮮半島でどのような活動をしていたのかを詳しく学びました。兄の浅川伯教は、朝鮮の美術に興味を持って朝鮮半島に渡り、朝鮮の白磁や青磁などの陶磁器について研究しました。特に、朝鮮半島にある 700 カ所以上の古い窯跡を調査し、朝鮮陶磁の歴史を明らかにしたことを知りました。弟の浅川巧は林業事業者として、荒れていた山々の緑化に取り組みました。また、朝鮮の人々と関わりながら、木工品などの工芸品にも関心を持ち、その美しさや価値を日本に紹介したことを学びました。さらに、兄弟が柳宗悦とともに、「朝鮮民族美術館」を設立したことも知り、朝鮮の文化や工芸を大切にし、その価値を多くの人に伝えようとした兄弟の活動について学ぶことができました。資料館には陶磁器や写真、伯教の書や絵画、巧の日記なども展示されていて、二人の活動をより具体的に知ることができました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟資料館を見学して、国や文化が違っていても、相手の文化を知り、その価値を大切にすることが重要だと感じました。特に印象に残ったのは、浅川兄弟が日本の統治下という難しい時代の中でも、朝鮮の文化や工芸に目を向け、その美しさを見つけて大切にしていたことです。今回の国際交流で韓国の中学生と実際に交流した後だったので、資料館で学んだ歴史をより身近に感じることができました。実際に韓国の中学生と一緒に過ごしたことで、日本と韓国には文化や生活の違いがある一方、同じように楽しんだり笑ったりできることも分かりました。そのため、浅川兄弟が朝鮮の人々や文化を大切にしていたことについても、より深く考えることができました。今回の見学を通して、違いを理由に決めつけるのではなく、まず相手の文化や考え方を知ろうとすることが、国と国とのつながりをつくるために大切なのだと感じました。これからも韓国について学んだり、今回の交流で得た経験を大切にしたりしていきたいです。

## ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

学習会の折に聞いた講義で、韓国の受験文化について初めて知ることが多く、非常に新鮮でした。受験日に試験が終わるまでお母さん達が願いながら待っていることに驚きました。特に驚いたのは、実際の交流の中で韓国の学生から聞いた試験のやり方です。韓国ではカンニングを絶対にさせない工夫として、試験の際に異なる学年の生徒を混ぜて実施しているということでした。そもそもカンニングをしても意味の無い環境にしてしまう発想に違いを感じました。

また、食事をする際に、韓国では食器を持たないことにも驚きました。箸文化の日本では食器を持ってまたは手を添えて食べることが常識ですが、持たずにそしてスプーンでというのが一般的だったのでこんなに近くに国でも大きな違いがあるのだなと思いました。

でもこういった文化の違いを、直接友達の口から聞くことで、机の上の勉強だけでは分からない「リアルな韓国」に触れることができて嬉しかったです。

## ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

研修旅行では、県内に住んでいても普段なかなか訪れる機会がない観光名所を回ったり、桃狩りやほうとう作りなどの体験学習を行ったりしました。心に残っている思い出は2つあります。

一つ目は、富士山五合目に行ったことです。実際に近くで見る富士山の大きさや景色に驚きました。韓国の中学生も富士山を見るのを楽しみにしていて、みんなで写真を撮ったり、景色を見ながら話したりしました。日本に住んでいる私たちにとっては身近に感じる富士山でも、韓国の中学生にとっては日本を代表する場所の一つなので、楽しそうにしている姿を見て、私も嬉しくなりました。

二つ目は、一緒にほうとう作りをしたことです。ほうとうは山梨の郷土料理なので、韓国の中学生に山梨の食文化を知ってもらうことができて、とても良い経験になりました。ほうとう作りでは、生地をこねたり、麺を伸ばしたり、みんなで協力して作りました。普段はなかなか自分たちで料理をする機会がないので、友達と一緒に作業することが新鮮で楽しかったです。作っている途中も、麺の太さや形がそれぞれ違っていて、完成するまでどんなほうとうになるのか楽しみでした。最後に自分たちで作ったほうとうをみんなで食べたときは、作るところから関わった分、より美味しく感じました。韓国の中学生と一緒に一つの料理を完成させたことで、楽しい時間を共有することができました。

自国の文化や地元の魅力を韓国生徒たちに伝える中で、私自身も山梨の自然や伝統の素晴らしさを再発見することができました。自分たちの生まれ育った地域に誇りを持つことの大切さを、交流を通じて学ぶことができました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

韓国の中学生とコミュニケーションをとる中で、特に難しかったのは言語の違いです。伝えたいことがあっても韓国語ですぐに言えないことが多かったので、翻訳機を何回も開いてできるだけ自分の気持ちや伝えたいことが正確に伝わるようにしました。

また、韓国人の友達が頑張ってくれてくれる場面があったので、私も翻訳機だけに頼るのではなく、自分が知っている韓国語を使って話してみるようにもしました。最初は間違っていたらどうしようとして少し不安でしたが、知っている言葉を使ってみることで、少しずつ会話をすることができました。言葉が通じにくい時もありましたが、ジェスチャーを使ったり、翻訳機を使ったりしながら、諦めずにコミュニケーションをとることを心がけました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力(理由も含めて)

今回の交流で一番の喜びだったのは、慣れない環境の中でも自分の考えを自分の言葉でしっかり伝え、心を通わせることができたことです。韓国の子達が日本のアニメを好きで、知っているアニメを聞いていったときに通じ合った瞬間嬉しかったです。ほうとうを作る時に、やることを教えて伝わったときにも嬉しかったです。言葉や文化の壁があっても、相手を知りたいという気持ちと伝えたい想いがあれば分かり合えることを実感しました。国境を越えて大切な友達ができただことは、私にとって大きな誇りになりました。

私はこの交流会に参加するにあたって、自分の殻を一つでも破って、積極的に話しかけるようになろうと思っていました。ふり返ってみると5日間の研修旅行はあっという間でしたが、目標を達成できたと感じています。私に大きな自信と視野の広がりを与えてくれました。ここで得た経験や韓国の友達との繋がりを大切にして、今後も異文化への理解を深めながら、自分の考えを周りに発信していける人間になりたいと思いました。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

市川中 2年 No2

氏名 萱沼琉海

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

山梨県出身の浅川伯教・巧兄弟は、大正から昭和初期にかけて朝鮮半島に渡り、当時の現地の人々や文化と深く交流した人物です。資料館の展示を通じて、彼らがただ現地に住むだけでなく、朝鮮の陶磁器や工芸品（白磁など）の美しさをいち早く見出し、それを保護・紹介するために生涯を捧げたことを知りました。

特に印象に残ったのは、弟の巧が現地の人々と同じ言葉を話し、同じ格好をして生活し、周囲から深く愛されていたというエピソードです。当時の歴史的背景を考えると、支配・被支配の関係を超えて、一人の人間として、そして異なる文化をもつ仲間として真摯に向き合うことは決して簡単ではなかったはずです。

この資料館での学びから、私たちは外見や国籍という偏見にとらわれず、相手の文化をリスペクト（尊重）する姿勢が国際交流の原点であると気づかされました。現代のグローバル社会を生きる私たちにとっても、浅川兄弟の残した「民芸の心」や「共生の精神」は、今なお見習うべき大切な教訓だと強く感じています。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

館内に並ぶ展示品や写真、解説を目にしたとき、最初にしたのは浅川伯教・巧兄弟の「情熱」です。当時、まだ多くの人が気づいていなかった朝鮮の陶磁器や民芸品の美しさをいち早く見出し、それを守ろうと動いた兄弟の確かな目と行動力に圧倒されました。

特に弟の巧が、現地の人々と同じ服を着て、同じ言葉を話し、暮らしに溶け込んでいたというエピソードには胸が熱くなりました。時代背景を考えれば、国籍や立場の違いによる壁は今よりもずっと厚かったはずです。それにもかかわらず、相手と同じ目線に立ち、一人の人間として深い絆を築いた巧の生き方は、本当に優しく、そして勇敢なものだと感じました。彼が亡くなった際、現地の人々が涙を流して棺を担いだという話からは、国境を越えた本物の愛が伝わってきて、思わず涙が出そうになりました。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

特に食事のマナーに対してです。両国の価値観の違いが明確に現れます。日本では、自分の料理をお皿に「取り分ける」のが基本で、茶碗を手で持って食べるのが礼儀です。しかし韓国では、器をテーブルに置いたまま、スプーンと箸を使い分けて食べます。さらに、テーブルいっぱいに並ぶ無料の副菜や鍋料理を、みんなで箸を伸ばして「共有」しながら食べるのが一般的です。料理を分け合う行為そのものが、仲間意識や一体感を育む重要な儀式となっています。

### ○韓国の中학생との交流で特に思い出に残っていること

バスでの移動で日本の言葉の使い方や似た言葉や敬語やタメ口の違いなどを教えたことです。旅館でも各自の部屋に集まり、韓国のゲームをして遊んだり、とても楽しかったことが印象に残りました。

食事の時は、韓国人と日本人の違いがよくわかる時間だったと私は思いました。

韓国人はお皿を置いて食べたり、もう片方の手は使わず利き手だけで食べたりするという日本とはまた違う所作を見ることができました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

言語が違う中会話をするのがとても大変だったけど、翻訳アプリや韓国の人が結構日本語が話せていたのでとてもコミュニケーションが取りやすかったです。

たまに翻訳アプリを使っても伝わらない時があり、難しい言葉を自分なりに簡単な日本語にして伝えることが大変でした。分からない言葉は自分で調べて伝えるなどして工夫をしてコミュニケーションを取りました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

私は他国の人との関わり方です。

あまり他国の人と関わる場面はないのでこの行事に参加したからこそその他国との関わり方が身についたと思います。

互いの国の文化を尊重し理解し合って、関わることができました。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

北西中 1年 No3

氏名 雨宮颯太郎

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟は、山梨県の八ヶ岳南麓に生まれました。ふるさとで目にした朝鮮美術の美しさにひかれ朝鮮に渡り、兄の伯教は、朝鮮陶磁の研究者として資料を集め調査や紹介を進めました。弟の巧は、森林技師として緑化に努めました。

浅川兄弟は、日本と韓国の歴史の中で、文化を通して人と人をつなごうとしました。

朝鮮の美術や工芸の価値を見出し、その美しさを日本に伝えました。また、朝鮮の文化財を守るために美術館作りにもかかわりました。

僕は浅川兄弟から、日本と韓国の関係が難しい時代でも、相手の文化を尊重することが大切だと学びました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

地域の歴史や人々の思いに触れることができました。浅川兄弟がどのような人生を歩み、どのような実績を残したのか知ることができ、とても印象に残りました。

特に、資料や写真から地道な努力や人のつながりを大切にしていたことが伝わり、今の僕たちのくらしが多くの人々の歩みや努力の上に成り立っていることを学ぶことができました。

浅川兄弟のことは初めて知りましたが、浅川兄弟は、日本と韓国の間に対立があった時代に、韓国の文化を大切にしました。政治ではなく、芸術を理解し、人と交流しようとする大切さを学びました。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

日本と韓国が一番の違いは言語です。

しかし、言語は全く違いますが、地理的に近い国で昔から交流が続いてきたこともあり、食事や礼儀など似ている部分も多いと感じました。

ただ、共通点も多いですが、例えば食事などでは日本は食卓に大皿に盛り付けた料理は並べ、小皿にとるスタイルが主ですが、韓国では小皿に料理を盛り付けたくさん並べるなどの違いがあり面白いと思いました。似ているからこそ違いが見えて面白いと思いました。

また、韓国の中学生はコミュニケーションをとることが積極的だと感じました。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

一緒に温泉や露天風呂に入ったことが特に楽しかったです。

海外の人は、裸の付き合いが苦手ときいたことがありましたが、韓国ではサウナなども人気なようで、言葉はわからなくても温泉で大騒ぎできたことが印象に残りました。

また、夜の部屋でカップラーメンを一緒に食べことや枕投げをしたことも楽しかったです。

昼間、みんなで観光したことももちろん楽しかったですが、お風呂や部屋で過ごす普通の交流がとても楽しく思い出深いです。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

韓国語が全然理解できないし、話せないし、マイナスからのスタートでした。

伝えたいことが中々伝わらず、苦戦したことも多かったです。

しかし、手振り身振りで伝わることも多かったし、ボランティアの先生の助けや携帯の機能もありコミュニケーションをとることができました。

勇気をもって相手のことを知りたいという気持ちと伝えたいという気持ちをもつことが一番大切でした。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

初めは言葉も理解できないし、話せないし、どのようにコミュニケーションをとればいいのか不安でした。しかし、年代も一緒なので、音楽や食べ物など好きなものが一緒だということもわかり、まずはコミュニケーションをとることが大切だと気づきました。

他の国の人とコミュニケーションをとったことがなかったですが、一歩踏み出す勇気をもてば言語や相手のことを知ればつながれるということが知れたことが大きかったです。

長い期間家族と離れることも、他の国の人と一緒に過ごすことも初めてで不安が大きかったです。相手のことを知ろうとする気持ちをもてばつながれるということを体験でき、参加してよかったです。

また、生まれ育った山梨のことなのに行ったことがない場所や知らないことが多いと気づきました。山梨県のことを再確認できたことも大きな学びでした。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

湖南中 1年 No4

氏名 米山桃叶

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟は、日本と韓国の文化や歴史を大切にして、韓国の人々や文化を理解しようとした人たちだと学びました。特に、韓国の美術や芸術品を研究して、そのすごさを日本に伝えたことが印象に残りました。あと、日本と韓国には、昔から深いつながりがあって、おたがいの文化を知ることが大事だなと思いました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

私は、資料館を見学して、浅川兄弟が韓国の文化を大切にしていたことがよく分かりました。実際の資料とかをよく見ると、昔のことを少し身近に感じれて良かったです。日本と韓国には色々な歴史があるけど、おたがいの文化を知ることができてすごく良かったです。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

- ・ごはんの時に、日本人は茶碗をもって食べるけど、韓国人は茶碗をもって食べないこと。
- ・ごはんを食べる前に、「いただきます」「ごちそうさまでした」などを言わないで食べること。
- ・韓国人の中学生がバリバリ学校に行ってるのに、ピアスやメイク、ネックレスとかをして学校に行ってもいいっていうことにすごくびっくりしました。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

日本人（自分）が韓国ドラマやアニメを見て韓国語を覚えようと思ってもむずかしいけど、韓国人は、ほとんどの人が日本のドラマやアニメを見て日本語を覚えたって言っていたので、韓国人すごいなあと思いました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

韓国語があまり分からなかったから、話すのがけっこう大変だったけど、知ってる韓国語を使ったり、ジェスチャーとかをしたりして、がんばって話しました。言葉が違っても、伝えようとするのが大事だなと思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この事業を通して、コミュニケーション力が身についたと思います。最初は韓国の人と話すことに緊張してたけど、自分から話しかけたり、相手の話をよく聞いたりすると、少しずつ話せるようになりました。この経験をこれからの生活に生かしていきたいです。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

南西中 1 年 No 5

氏名 岩崎 衣菜

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

私が浅川兄弟で学んだことは、他国と関わる大切さを学びました。浅川のりたかさんが始めた相手と同じ格好をして同じ言葉で話すことから始まった日韓交流でまずは相手との距離を縮めさせるには相手との距離感を大事にしないといけないということが浅川のりたかさんのおかげでわかりました。相手の文化を尊重すること・寄り添ってあげることの大切さを浅川兄弟のおかげで知ることができました。違いを気にせずというところが大切だなって思いました。浅川兄弟がした自然に配慮というところも感動しました。自分の故郷ではなくても困ってる場所があれば自然や地球のためにも力を貸すというところがいいなって思いました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟の資料館を見学して、日韓の仲が良くなるまでにはいろいろな努力がありその結果日韓の仲が良くなったっていうのがわかりました。「人の価値は、地位やお金ではなく、どう生きたかで決まるんだ」というおじいちゃんの教えが今の日常生活と関係つけれるなって思いました。色々な人がいる中で、浅川兄弟みたいな人がいることによって歴史が積み重なっていくということがわかりました。普段の生活で気になったことには意識を向けるというのも、今回の浅川兄弟の資料館を見学して思いました。小さなことに意識を向けるって大変なことかも知れないけどそれが世界の絆を深めることに繋がるならばどんな結果であれやってみる価値はあるなって思いました。浅川兄弟が行った行動が 2026 年まで続いていると思うと浅川兄弟の行動が他国にとってよかったんだなって思いました。言語が繋がらなくても行動は目でわかるからこそ、これから自分が行う行動を一つ一つ意識して相手からありがたいと思われる行動を増やしていきたいです。

## ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

今回の日韓交流で特に印象に残っていることは食事マナーです。日本ではラーメンなどをすすって食べるのが美味しいと言われているけど、韓国では咀嚼音を立ててはいけけないので静かに食べるということも違うということが知れました。他に、日本では食器を持って箸で食べるというのが普通ですが、韓国ではお皿が熱くて重いので、置いてスプーンで食べるというのが普通ということがわかりました。国の中の普通の違いが面白いなって思いました。日本では勿体無いから最後まで残さずに食べようというのが当たり前だと思っていたけれど、韓国では少し残すのが「お腹いっぱいです。美味しかったです。」というメッセージを伝えるということがわかりました。班の子に教えてもらった食事マナーでは、少し残さないとお腹いっぱいにならなかったんじゃないかと心配されることから、一口残すというのがマナーと教えてくれました。食事マナーが全然違うということが、今回の日韓交流で学べて良かったです。他国との違いって直接話して教えてもらおうと、面白いなって思う相違点があって良かったです。自分の国のマナーを押し付けるのではなく、相手の国のマナーを尊重する大切さを、今回の日韓交流で学びました。食事マナーについてだけで7個も相違点があるということがわかりました。

## ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていることは、言語についてです。交流前では、韓国の子達にいろいろ教えてもらいたいけど、うまく伝えられるかなって不安になりました。でも初日に仲良くなった子たちが、その緊張をほぐしてくれました。韓国の子達がこんにちはと日本語で言ってくれた瞬間、いつも交わす挨拶より心が温まりました。それは多分、他国の子が私たちの為に日本語を話してくれたからです。私も事前に使える単語は覚えてきてたので、少し安心できました。相手のために勉強する機会を作れたのは、この国際交流があったから学べたんじゃないかなって思います。できるだけ今回の日韓交流で翻訳機は使いたくないなって思っていました。なんでもデジタルに頼るより、自分の口やジェスチャーで伝えた達成感を日韓交流で学びたかったからです。言語では難しいけど、ジェスチャーを使って伝えたいことを伝えられて良かったです。でもジェスチャーと自分が使える言語だけでは、伝えきれなかった部分もありました。その時にはチーム長の先生が相手に言うのではなく、言葉を教えてくれて言えたことが嬉しかったです。2日目の夜ご飯の時には韓国語でいただきますと、ご馳走様を言えるようになりました。バスの中でも日本の遊びと韓国の遊びの違いを見つけて、笑えた時の嬉しさを今でも覚えています。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

コミュニケーションをとるのに努力したことは、翻訳機をできるだけ使わずに会話をしたことです。1日目の時に、こんにちはとアインちゃんが言ってくれて、その時に翻訳機じゃなくて自分の言葉で、会話をしたいって思えました。でも現実では自分が使える単語だけでは話きれなかったというところがありました。そんな時にはジェスチャーを使って伝えました。そうしたら韓国の子も分かってくれて、翻訳機では味わえない達成感を味わうことができました。他国だからこそ言語の壁があるのは分かるけど、その壁をいかに4泊5日で無くせるかを私は試してみました。初日では韓国の子たちにアニョハセヨと話しました。そうしたらアニョハセヨと返してくれて嬉しかったです。何より自分から動かないと言語の壁って無くせないから、自分から話題をつくって話そうと思えました。1日目は緊張してあまり話すことが出来なかったけれど、2日目のバスで韓国のこと、スクイズことなどの話題で盛り上がることができました。その時は話せて楽しかったし、他国との交流ができて嬉しかったです。他国との交流で1番難しいのって言語の壁だと思うけれど、それを尊重し合える関係を4泊5日で築き上げられて良かったです。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力(理由も含めて)

今回の交流会で身についた力は諦めない力です。交流会前に私は韓国の友達を1人でも作るという目標を立てていました。でも、会った時は何を話しているのかがわかりませんでした。だけど韓国と日本の班が合体した時に韓国の子に、アニョハセヨと言いました。そうしたらアニョハセヨと返してくれて、そこから私は自分の口頭で伝えて他国と共感できる嬉しさを学びました。この嬉しさは韓国の子が親切な子だったからだと思います。そこから私は翻訳機を使わず、ジェスチャー・自分がわかる単語でやろうと思いました。バスの時も韓国のことを話し仲を深めることができて良かったです。わからない時はチーム長の先生に聞いて、自分で伝えることが出来ました。韓国語は難しいけれど、伝えられた時の達成感があり、嬉しかったのを今でも覚えています。最終日には韓国の子が泣いてくれたのを覚えています。その時に私は良かったと安心しました。韓国の子達を迎えるにあたって、どんなおもてなしをしたら、韓国の子達が楽しいと思えるかなって思っていたからです。他国との関わり合いは、いつもより行動に責任がありました。一緒に行こうって誘ったらいやかなど、相手のことを考えてそれを韓国の子に伝えるという緊張があった中、最終日に楽しかったって言って泣いてくれて私は色々な国のこと良い関係をもっと築き上げたいと思いました。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

山梨学院中 2年 No06

氏名 細谷優月

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

もともとは、日本はかつて韓国を植民地支配をしていたことを知りとても驚きました。この交流ができたのもこの兄弟のおかげでもあり、この交流で出会えた仲間たちにもずっと感謝していきたいと思いました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟資料館に行き、交流ができることはこの兄弟が韓国を愛して日韓の架け橋を築いてくれたおかげなんだと知りました。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

言語の違いはもちろん、日本はお風呂とトイレは別々になっていますが、韓国ではお風呂とトイレが同じ空間にあるということが印象に残っています。他にも、日本は器をもってご飯を食べますが、韓国では器を机の上に置いて食事をするということを知り、とても驚きました。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

会う前は韓国の中学生はどのような人たちなのか思い浮かびませんでした。でも、実際に会ってみると、私たちと全く変わらない中学生でした。韓国の友達は本当に優しく、この交流だけでなく普段過ごしているみたいに、学校で皆で一緒に過ごしていきたいなと思うくらい、大切な友達ができました。特に思い出に残っていることは、韓国のコンビニでお菓子を買ってきてくれてみんなでお菓子パーティーをしたことです。その時にみんなでたくさんお話ができて楽しかったです。他には、魚は韓国語で言うと水肉という意味っていうことを教えてもらいました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

私はほぼ韓国語を勉強しないで参加してしまい、翻訳機にたよってしまったことが多かったので勉強をもっとしていればよかったととても後悔しました。翻訳機を使ってもまちがったことをみせてしまったので、やっぱり言葉でしっかりと伝えることが本当に大切だと実感しました。やっぱりもっと話せた方が楽しかったと思うし仲良くできたけれど、もっと仲良くなれたのではないかと思います。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

今回の交流でもっと話せば良かったととても後悔しました。私の中学校は修学旅行でオーストラリアに行き 2 週間ホームステイで生活するので、この反省を生かしてぺらぺらと話せるようにしていきたいのと、お互いの文化をしっかりと理解していきたいと思いました。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

山梨学院中 2年 No7

氏名 田村妃夏

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

私は韓国がとても好きだけれど、日本と韓国が、支配する者と支配される者の関係にあったことにまず驚きました。なぜなら、日本はよく平和の国とか優しい国のようなイメージがあったし、今の中学生は、韓国の文化や K-Pop アイドルを好きな人がたくさんいるので、現在の様子からも想像できなかったからです。そこで浅川兄弟が日本に対して良いイメージがなかった。時代に韓国を愛し、架け橋になって今の日本と韓国の関係のきっかけになったということを学びました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟の事は、日韓交流会に参加するまで何も知らなくて、どんな人なんだろうと思っていましたが、浅川兄弟資料館を見学してとても凄い人なんだなと思ったし、浅川兄弟のおかげで私が好きな K-Pop アイドルを好きになって、日常を充実させることができたし、日韓交流会に参加して、新しい友達を作ることができたので、すごく感謝しました。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

日本では食事中に肘を机の上に置いたり、スマホを見たりするとマナー違反だけど、韓国では肘を机の上に置いたり、スマホを見ることに抵抗がないようでした、また、ご飯を少し残すことが、かえってマナーになることを知りました。

あと、美容整形について韓国では、それが当たり前になっていたりすることに驚きました。日本では、まだまだ広まっていないし、抵抗がある人が多いと思います。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

同じ班だった韓国のお友達はとてもフレンドリーで優しく、最終日にはお手紙をくれて涙を流しながらさよならして、すごく素敵な友達ができたと思います。それに日本と韓国の流行りの言葉やアプリなどを教えあい、たくさんお話ができたのがとても印象に残っています。なので、また機会があったら会いたいです。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

私は韓国語を少し読めるなど、ちょっと単語がわかる程度だったので、韓国の子たちがペラペラとスムーズに話していると、何を言っているのかあまり分からなかったので、すごく悔しかったです。だけど韓国の子たちは日本語を話せる子がいて、ちょっとでも伝わるようにたくさん考えて会話をしてくれたので、私もああいう風になりたいなと思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

言葉の通じない外国の人に、フレンドリーに自分から話しかけることや、ちょっとでも伝わるように、頑張って単語を探して会話したので、そこら辺が少し上達したと思います。自分から進んでコミュニケーションを取る大切さを学びました。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

明野中 3年 No8

氏名 齋藤優馬

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

兄弟共に、北杜市で生まれ育ったと知りました。  
自分達の人生をかけて、朝鮮半島の魅力や素晴らしさを今世の人々へ残して凄いと思いました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

展示されていた年表を見たりして、凄いと思いました。  
相手の文化を知る、大切にすることというのは大切だと改めて思いました。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

- ・目上の人に対する姿勢

年上の人を尊敬している。一つでも歳が上なら敬語できちんと話をする。

- ・家族を大事に考えている

日本でも家族が大切な人はたくさんいるけど、より絆があるように感じました。

- ・言葉

言葉もハングル文字も難しいです。今は翻訳機能もあるおかげで、LINE で会話出来るけど、本当はそれを使わずに、会話が出来るともっと楽しいと思いました。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

- ・卓球をしたこと。

- ・グループワークの発表、みんなで力を合わせて頑張ったこと。

- ・部屋で遊んで楽しかったこと。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

言葉の壁もあるし、緊張したけど、ジェスチャーや携帯の翻訳機能も活用して会話しました。  
韓国みんなは、なるべく短く単語だけでも分かってくれたので、頑張って話すようにしました。  
韓国みんなも同じように思っていたかも知れないけれど、それでも話を一生懸命してくれる姿、  
とても嬉しかったです。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

同じ学校の友達も知っている人もいない中ではあったけど、今回の事業に参加したいと思って良かったのは、初めてでも協力してグループワークが出来たり、話したいと思う気持ちを大事に、  
韓国みんなとコミュニケーションが取れたりしたことです。  
行くまでは不安だったけど、友達も出来て、本当に楽しかったし、大切な思い出になりました。  
両親や祖父母からも、今回の事業から帰ってきて、行動力があると褒めてもらい、これからも、  
まず行動してみるのも良いと思いました。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

双葉中 2年 No9

氏名 山坂柊太

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

日本と韓国は古くから交流があったことを知りました。浅川兄弟は 100 年以上前に朝鮮半島で生活していました。当時の朝鮮半島は日本の統治下にあり、日本と韓国の関係が今とは大きく違っていった時代です。

浅川兄弟の兄、伯教さんは、韓国の美術、陶磁器や工芸品に魅せられて、その美しさや価値を研究しました。弟の巧さんは林業に関わり、韓国の山を守る活動をしたり人々の暮らしや文化を大切にしたりしました。巧さんは、亡くなった後も、韓国の地に埋葬されています。

このことから、歴史には、「日本人だから」「韓国人だから」という国の違いだけでは語れない人と人との関係があることを知りました。

浅川兄弟が、国境を越えて朝鮮の文化や人々を大切にしたように、私もお互いの違いを知り、相手を尊重することが、これからの日韓関係につながっていくのだと思います。歴史を「過去の出来事」として覚えるだけでなく、今の日本と韓国の関係や、これからの交流について考えることが大切だと学びました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

今まで知らなかった日本と韓国の歴史について知ることができました。

浅川兄弟は韓国の文化を大切にして、朝鮮半島の人々と交流しながら、韓国の文化や民芸品を守ろうとしたことを知りました。日本と韓国は、過去にいろいろな歴史があったことを聞きましたが、その中で韓国の文化を理解し、大切にしようとした日本人がいたことを知り、すごいと思いました。

○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

ごはんの食べ方が少し違っていた。

日本の中学生はホテルのベッドは寝るときに使っていましたが、韓国中学生は部屋に入っすぐベッドを使っていました。日本の畳や布団の風習が関係しているのかと思いました。

韓国中学生は母国のお菓子などを持ってきてくれて配ってくれた。日本の中学生はやっていなかったな、と思いました。

○韓国中学生との交流で特に思い出に残っていること

みんなで卓球大会をやったこと。

同じ部屋やグループの人じゃない人とも交流することができて、最終日でより関係性が深まったと思いました。

ホテルの部屋でみんなでカップラーメンを食べたこと。部屋にポットがなかったのも水で作って食べたけど、一緒に食べて楽しかったです。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

翻訳機能を使わずに話したいと思っていましたが、カタコトになってしまって、うまく伝えられず、結局翻訳機能を使ってしまったことが悔しかったです。もっと勉強して話せるようになりたいと思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

自分から積極的にコミュニケーションをとる力が身についたと思います。  
理由は相手のことを考えたり、分かってもらいたい、と思ってコミュニケーションをとることの大切さを改めて感じ、意識してコミュニケーションをとることができたからです。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

高根中 1年 No10

氏名 木村樹

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川巧・伯教兄弟が、日韓の文化交流や韓国の工芸品・林業の発展に大きく貢献したことを学びました。特に、朝鮮の文化を尊重し、現地の人々に寄り添いながら歩んだ姿勢は、国境を越えた相互理解の原点であると感じました。歴史的な背景を学ぶことで、現在の私たちが韓国とどのような信頼関係を築いていくべきかを考えるきっかけになりました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

資料館で展示されている写真や資料を見て、浅川兄弟がいかに韓国の人々と深い絆で結ばれていたかが伝わってきました。時代が厳しい状況にあるなかでも、個人の心の通い合いや敬意が国同士の架け橋になるのだと実感しました。自分も今回の交流事業を通じて、浅川兄弟のように相手の文化を深く理解し、大切にできる人になりたいと強く感じました。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

特に印象に残っているのは【食文化の違い/食事のマナー/挨拶や接し方のフレンドリーさ】です。日本と韓国は一見似ている部分が多いと思っていましたが、具体的な違いを目の当たりにし、文化の多様性を肌で実感しました。お互いの「当たり前」の違いを知ることが、異文化理解の第一歩だと実感しました。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

最も思い出に残っているのは、ゲームやスポーツ、観光などをしたこと/自由時間にみんなで UNO をしたことです。最初は緊張してうまく話せるか不安でしたが、言葉の壁を越えて一緒に笑い合えた瞬間、一気に距離が縮まりました。お互いの共通点を見つけられたことが本当に嬉しかったです。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

- ・努力したこと:事前に覚えた簡単な韓国語(アンニョンハセヨ、カムサハムニダなど)や英語を積極的に使い、身振り手振りやスマホの翻訳アプリも活用して思いを伝えようと工夫しました。笑顔と相槌を絶やさないことも意識しました。
- ・難しかったこと:自分の伝えたい細かいニュアンスや気持ちを、とっさに言葉に変換して表現することが難しく、歯がゆい思いをしました。しかし、一生懸命伝えようとすれば相手も真剣に聴いてくれることを学びました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力(理由も含めて)

特に身についたのは「積極的に相手と関わろうとするコミュニケーション能力」と「異文化を受け入れる柔軟性」です。

【理由】→言葉が完全には通じない環境の中でも、自分から歩み寄る勇気を持つことで心を通わせられる体験をしたからです。また、自分の価値観にとらわれず、相手の文化や意見を尊重することの大切さを学んだため、今後の学校生活や国際理解の場でもこの経験を生かしていきたいです。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

高根中 2年 No11

氏名 竹川遥夢

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟は当時の朝鮮の自然を増やしてとてもすごい人だと思いました。

また浅川兄弟の兄は陶磁器をたくさん集め、朝鮮での趣味を見つけることができているなと思いました。

また朝鮮で教師をするのは大変だしものすごい責任だと思ったのですが、そのなかでも一生懸命自分のすべきことを頑張っていてすごいと思いました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

自分は高根に住んでいて何度か行ったことはあるのですが、何回見学しても浅川兄弟の歴史が凄く分かりやすく書いてあって見やすいと思いました。

また人物像もあって当時のやりかたがすぐ想像できてわかりやすかったです。

もっと見たいってなるような感じで良かったです。

○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

食事の面が一番文化の違いを感じました。日本では皿をもって食べるが韓国では違い、いろいろ文化の違いだなんて思うところがありました。

支払方法が違いました。韓国人は中学生でもカードで支払う人が多くて、すごいなって思いました。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

2日目夜の石和びゅーほてるでの出来事で、一緒にお菓子を食べたりしてとても楽しかったことが、とても思い出に残っています。あと3日目のシャトレーゼ釜崎の森ホテルの夕食のときのこと、自分にどのアイスがおいしいか聞いてきて教えてあげたけれど、そのアイスがなくて一緒にアイスを食べることができなかったことが印象に残っています。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

韓国人と話すのが多かったのはたぶんホテルだと思います。  
世界共通の英語を使って話すことが多かったですが、韓国語も教えてもらいました。  
翻訳アプリを使って会話しました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

他国の人も話すことが初めてで話せるか心配だったけど、自分なりに会話ができたと思います。  
相手も日本語で話そうとしていたので、自分も頑張って英語を使ったり韓国語を使ったりして、  
言語の壁を乗り越える力が身に付いたと思いました。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

田富中 3年 No12

氏名 渡邊 楓

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

私は浅川兄弟について知らなかったので、浅川兄弟がどんなことをしたのかを学ぶことができました。私は浅川兄弟の学習を通して、浅川兄弟が韓国の文化を大切にし、守ろうとしたことを知りました。日本と韓国には昔から様々な歴史があることを知り、もっと両国の歴史について学びたいと思いました

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

資料館を見学して、浅川兄弟が韓国の文化を大切にし、守ろうとしていたことがよくわかりました。実際の資料を見ることで、浅川兄弟についてより深く知ることができました。

○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

韓国語には、相手との年齢や関係によって言葉遣いが変わることが印象に残りました。日本にも敬語はありますが。韓国では年齢をととても大切にしていることが言葉にも表れていると知り、日本との違いを感じました。また、このような交流で学んだことをさらに勉強して詳しくなりたいです。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

ほうとう作りです。  
ほうとうは山梨の伝統的な料理であり深く親しまれています。そのほうとうを、麺から作り食べれたことは本当に大切な思い出だし、貴重な経験だと思っています。きっとこれからほうとうを食べる時は忠清北道の方を思い出すと思います。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

私は忠清北道の方とコミュニケーションを取るために、事前に必要だと思う単語などを覚えていました。日本人は韓国語が話せなくて韓国人は日本語が話せない、そして中学生のためまだ英語も曖昧で、1日目は特に苦戦しました。けれど、日にちがたつにつれて、ジェスチャーで「これかな」と感じる事ができ、お互いの言語を教え合いコミュニケーションが取れるようになり、「自分から話してみよう」という気持ちがわくようになりました。韓国語と日本語の特徴として、発音が似ている単語が多く、お互いに「日本語ではこうだよ」「韓国語ではこうだよ」と学習もすることができました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

私は大きく分けて二つあります。

一つ目は、相手に伝える力が付いたことです。私は、普段自分の気持ちを誰かに伝えることは苦手です。それは、今回の国際交流でもそうでした。日本人でも「これ言っているのかな」「変に思われないかな」という気持ちが事前学習会までずっと心の中にありました。しかし、交流会が始まると四泊五日しかなくて、これから会えなくなる人がほとんどと考えた時後悔したくないと思ったからです。まずは班の日本人・韓国人、そしてチーム長と仲を深めようと思いました。そして、その班の子の友達と仲良くなり、日本人とも韓国人とも段々とコミュニケーションが取れるようになりました。

二つ目は韓国に対する意識がさらに上がったことです。今の時代日本は韓国の情報を取り入れたものを発売して、アイドルやドラマはとても有名で、よく目にしていました。実際韓国の方と会って一番気になったのは発音でした。アイドルが日本公演などのときは、日本語で話しています。韓国の方が日本語を話すと少し韓国のなまりが出ていて驚きました。もう一つ驚いたことは、韓国の方の美容意識です。中学生になると日本でもスキンケアやメイクをする人が増えてきます。韓国の方は多くの方がしていて、スキンケアも一工程一工程丁寧にしていて、見たことのないものをたくさん目にしました。そしてメイクも、日本とは違い、ナチュラルで誰が見てもかわいいと思えるメイクをされていて、もし韓国のスキンケア用品やメイク用品が日本で売っていたら手にしてみようと思いました。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

明見中 2年 No13

氏名 渡邊聖菜

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟資料館では館長さんのお話を聞き、兄の伯教さんが実際に作ったという朝鮮古陶磁やその破片などの展示物を見て、その後、浅川兄弟についてのビデオを鑑賞して学びを深めることができました。私が一番学んだことは、“浅川兄弟の功績”です。特に弟の巧さんはお互いの文化を尊重して深い理解と愛情を示し、今の日韓交流の架け橋になったことを知ってとても感心しました。弟の巧さんは亡くなった後は、韓国のソウル郊外にある忘憂里公園墓地にお墓が建てられています。これは今でも韓国の人々に慕われ続けられている証ではないでしょうか。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟資料館を見学してみて、私は見学したものの中なかでもさっき話に出た通りに兄の伯教さんが実際に作った朝鮮古陶磁とその破片・弟の巧さんが実際に書いたという日記がとても印象に残っています。実際に作ったものや書いたものを見るとやっぱり教科書に載っている写真とは違って、実物を見ることによって、「これって本当にこの人が書いたのか！！」と実感できるし、より迫力が伝わってきました。写真と本物では迫力が違ってとてもすごかったです。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

異なる文化について印象に残っていることは、大きく分けて3つあります。まず1つ目は、“食事のマナー”についてです。4日目のお別れ会でのグループ発表のなかでも挙げられましたが、日本では食事中にスマホを触らないということがマナーの1つに入っていますが、韓国では食事中でもスマホを触っている人がいて、これには一番驚きました。2つ目は、“トークアプリ”についてです。この内容もグループ発表の中で挙げられましたが、日本ではLINEというアプリを使っていてそのなかには“LINE friends”というキャラクター達が存在しますが、韓国では”TALK “というアプリを使っていてそのなかには” KAKAO friends “というキャラクターたちが存在していることを知りました。私は勝手に「LINE は世界共通」だと思っていたのでこれにも少し驚きました。3つ目は” Instagram は世界共通 “ということです。これは逆に日本だけかと思っていたけど、世界共通なことに驚きました。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

今回の交流で一番思い出に残っているのは4日目全体です。大きく分けて2つあります。1つ目は、卓球大会です。みんなでおそろいの T シャツを着てやりました。最初の試合では、卓球はあまりやったことがなかったので、難しくて結局負けてしまいました。2試合目は途中で終わってしまいましたが、だんだんとコツがつかめてきて途中の結果は私が勝っていたので、私の勝ちだと思います。2つ目は自分達の部屋に集まってみんなでカードゲームをしたことです。韓国のルールでやったけどそんなに難しくなくてとても楽しめました

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

コミュニケーションをとるうえで一番難しかったことは、“言語の違いです。私はメッセージを送る時や話す時にほぼ翻訳を使って会話を成り立たせていました。私とは違って韓国の子達は、日本語が上手な子たちばかりで中には翻訳ができる子がいてとてもすごいと思いました。日本の学生の子の中でも、少しだけ韓国語が話せる子がいて自分も見習いたいと思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この事業を通して身についたと思うのは、“コミュニケーション能力”だと思います。自分はコミュ力がなかったのですが、今回の交流などを通して自然と仲良くなれた子が多かったのもそこは成果だと思います。この身についた能力を、日々の学校生活などで意識できるようにしたいと思うし、今回の交流みたいに知らない人たちが多い場面とかがあったら、積極的に話に行けるようにしたいです。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

都留第二中 2年 No14

氏名 坂本 朋輝

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟の生き方や浅川兄弟が韓国に起こした影響を知ることができた。  
その中で浅川兄弟は、ただ韓国と日本をつないだだけの人という認識から、浅川兄弟は、韓国の人に寄り添うことや、朝鮮白磁や民芸の美しさをひろめるなどの行動を通して政治ではなく芸術と心で韓国と日本をつないだということを知り、二人の周りに流されないことや、今や自分だけを大切と思わず、未来や後世も視野に入れて行動していた人であったという認識に変わった。

また、浅川兄弟が日本と韓国を結ぶためには政治ではなく、芸術が必要と感じたということや実際にそのための活動に人生をささげたことを知った。特に、韓国の庶民の工芸品を、借金をしてまで集め、朝鮮の文化を残そうとしていたところが心に残っている。

ほかにも、この二人の植林や、民芸品の収集などの活動があまり人に知られていないことも学んだ。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟資料館で、映像を見て、資料を見学する中で、自分の好きなことや、すごいとおもったことをそのころの価値観を破って貫き通せるところに、驚かされた。自分なら常識にとらわれて、白磁器の美しさなどを感じることもさへ難しいと思い、圧倒された。また、二人の行動が韓国の人々の心に残っているところにも、ほかの人に認められるくらい人の為に働いていたというところをとてすごいと感じた。自分もこの二人の行動や決意ができるような人になりたいと思った。

○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

文化の違いを感じた場面として、時間の使い方が心に残っている。朝起きた後に私は、準備をある程度済ませていた。同室の韓国の中学生は、目が覚めた後もそのまま布団の中に、集合時間の五分前に起きて一瞬にして準備を済ませ、時間ぴったりに到着していたところがとても驚いた。日本には五分前行動の文化があるものの、韓国にはそれがないのかと思い、印象に残っている。

また、食事の時に食器を持たないなどの食事の仕方や、自分なら電子機器を使わない場面でも電子機器を使っていたことなどの、電子機器の使い方などの部分では多少違いがあったが、思っていたよりも違いが少なかったことも印象に残っている。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の中学生との交流で一人一人が、友好的だったことが特に印象に残っている。交流の中で、英語や、翻訳機能などを挟んで、趣味や共通の話題、好きなことや感じたことを共有でき、ゲームなども一緒に楽しめた為、より交流会を楽しみ、韓国の中学生とも仲良くなることができたと思う。

また、韓国の中学生と話す中で、日本語と韓国語を教えあったことも思い出に残っている。教え合いは、最初は同じ班の韓国の中学生と二人で行っていたものの、教えあいをする中で、まわりをまきこんでみんなで行うことができたと感じた。

韓国の中学生と交流する中で、特に仲良くなることができ、思い出に残ったと思う活動は、グループワークだ。グループワークを行う中で、交流会で訪れた場所を振り返りつつ、意見が食い違い、衝突したこともあったけれど、最後にはみんな協力して行えたことが、この交流会で韓国の中学生と仲良くなれたきっかけになったと思う。

また、見学や食事の際に、韓国語の表現と日本語の表現を互いに出し合ったことも思い出に残っている。互いに、英語を挟んで日本語ではどう言うのか、韓国語ではどう言うのか、質問しあって、覚えて、使いあえたことがとても勉強となり、仲を深められたと思う。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと（特に言語の部分）

韓国の中学生と話す際に、日本語が通じないため、できるだけ感情をこめて自分の声で伝えるために、英語で表現した。だが、英語で知っている言葉が少なく、伝えられる言葉が限られていることで、自分の使える言葉にすることが難しかった。

韓国の中学生とコミュニケーションをとる中で、特に、食事や、見学をするなどの反応や、バスの中での会話などのコミュニケーションの際に、コミュニケーションを三段階に分けて行うことを努力した。私は、コミュニケーションはできるだけ言葉で伝えたほうがいいと思っている。そのため、韓国の中学生とコミュニケーションをとる際に、まずは相手の国の言葉で、それができなかつたら、つぎに世界の公用語である英語で、最後にそれもできなかつたらスマートフォンの翻訳機能を使ってコミュニケーションをとるように努力した。

ほかにも、韓国語と日本語を食事中や移動中などの空き時間に教えあったのが楽しかった。その中で、教わる時には覚えてすぐに発声することが難しく、また教えるときには、発音やイントネーションの違いを伝えるところが難しいと感じた。だからそれが伝わるように何回も伝えようと努力した。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この事業を通して違う文化の人との仲良くなる力がついたと思う。初めて同年代の外国人と交流し、試行錯誤しながら、韓国の学生と仲良くすることができ、多くの友達を作ることができたからだ。

また、韓国への関心がより強くなったと思う。自分の中でこの事業に参加する前は韓国について、食べ物が美味しいことと、アイドルが有名なことしか知らず、関心が薄かった。だがこの事業に参加し、韓国の中学生たちと交流する中で自分の中に韓国への親近感がわき、韓国についての関心が強くなったと思う。

交流会の中で、私の考えた三段階に分けたコミュニケーションを行えたことは、ほかの言語でも使えると思ったため、特に自分の力になったと思う。

私は年が近い外国の人と関わったり、話したりした経験がなかったため、このように相手に伝える方法を考える機会がなかった。だからこそ、この事業に参加して、同じくらいの年の外国の人と外国語で、自分たちの力で、相手に頼らずコミュニケーションをとることができたことが私にとって良い経験になったと思う。

このようなことを意識しながら、韓国の中学生とコミュニケーションをとる中で、外国語をもっと学びたいと思った。コミュニケーションをとる際には、両方が言葉を理解できなければならないということを、この交流会を通してより感じた。だからこそさらに外国語を学び、言語の壁を破り、様々な人と交流し、文化を感じ、相手と会話をして親しみあい、仲間と共に広い世界を見たいと思った。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

西桂中 3 年 No15

氏名 相川瑚乃

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟について学んで、私は日本と韓国の歴史には、国同士の関係だけではなく、一人一人の考え方や見方があったと言うことを知りました。浅川伯教と浅川巧は、山梨県北杜市出身の兄弟であり、兄の伯教は1913年に朝鮮半島へ渡り、朝鮮の陶磁器、特に白磁に強く興味を持ちました。そして、朝鮮半島にある700か所ほどの古い窯跡を調査し、朝鮮の陶磁器について研究しました。弟の巧は1914年に朝鮮へ渡り、林業の仕事をしながら、朝鮮の人々の生活や文化、木工品や陶磁器などについて知っていきました。当時の朝鮮半島は日本の統治下にあり、朝鮮の文化や民族が軽視されることもあった事を知りました。そのような時代に、浅川兄弟は朝鮮の文化を「日本のもの」として扱うのではなく、朝鮮の人々が大切にしてきた文化として尊重していいなと思いました。特に巧は朝鮮の人々と同じ目線で接し、朝鮮語を話したり、現地の生活や文化を大切にしたりしていたことを知りました。巧は林業技術者として、荒れていた朝鮮の山々を緑にすることにも力を尽くしていたことも知りました。ただ木を植えるだけではなく、その土地の自然や環境に合った方法を考えていたことが分かりました。また、浅川兄弟は日本人でありながら、朝鮮の工芸品の美しさを日本に伝えようとしていたそうです。日常生活で使われていた食器や家具などにも価値を見つけ、それらを保存しようとしていました。私は、日本による統治の中で失われてしまうかもしれない文化を、国籍に関係なく大切なものとして残そうとしたことが、すごいと思いました。歴史には国と国との対立があるけれど、その中でも相手の文化を理解し、大切にしようとした人がいたことを知りました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟資料館を見学して、私は今まで知らなかった浅川伯教さんと浅川巧さんについて、たくさんを知ることができました。最初は、浅川兄弟について「日本と韓国の歴史に関係した人」というくらいのイメージしかありませんでした。しかし、展示を見ていくうちに、二人が朝鮮の文化や人々をとっても大切にしていたことが分かりました。特に印象に残ったのは、朝鮮の青磁や白磁などの陶磁器です。実際に展示されているものを見ることで、写真で見るよりも、当時の人々がどのようなものを使って生活していたんだなということが感じる事ができました。伯教さんは朝鮮の陶磁器に魅了され、たくさんの窯跡を調査していたことも知りました。資料館には、伯教さんが集めた陶磁器の破片や、窯跡調査についての展示もあり、研究を続けていたんだなと思いました。また、巧さんの日記の展示も心に残りました。日記には、朝鮮で暮らしていた巧さんが、朝鮮の人々や生活について感じたことが残されています。実際に本人が書いた記録が残っていることで、歴史上の人物を遠い昔の人としてではなく、一人の人間として身近に感じる事ができました。私は、歴史の授業では大きな出来事や年代を覚えることが多いですが、資料館では、その時代を実際に生きていた人の考えや気持ちについて考えることができました。さらに、資料館には兄弟の年譜やジオラマ、ビデオ解説などもあり、二人がどのような人生を歩んだのかを順番に知ることができました。浅川兄弟が朝鮮の文化を大切にしたように、私も自分とは違う文化や国に興味を持ちたいと思いました。

## ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

今回の交流会では、韓国の人と少しでも仲良くなり、楽しくコミュニケーションを取れるように、自分から積極的に話しかけることを意識しました。最初は言葉がうまく通じるか、何を話せばいいのか分からず緊張していましたが、韓国の子が話しかけてくれたり、自分からも声をかけたり、簡単な質問をしたりするように頑張りました。また、韓国語を使って少しでも会話ができるように、事前に覚えた韓国語を実際に使ってみました。間違えてしまうこともありましたが、間違いを恥ずかしがって話さないよりも、知っている言葉を使って伝えようとするのが大切だと思い、積極的に韓国語を使うように努力しました。分からない言葉があったときには、身振り手振りや表情を使ったり、簡単な日本語や英語を使ったりして、どうすれば相手に伝わるかを考えました。さらに、自分ばかりが話すのではなく、韓国の人が話していることをしっかり聞くことも意識しました。相手の好きなことや学校生活、韓国の文化などについて質問し、相手のことを知ろうとしました。共通の好きなものを見つけたときには、その話題を広げたり、自分のことも話したりして、会話が続くように工夫することができました。また、相手の文化や習慣が自分と違っててもそれを否定するのではなく、違いを楽しみながら相手を理解しようとしていました。4泊5日という長い時間を一緒に過ごす中で、最初は緊張していたけれど、少しずつ自分から話しかけられるようになってよかったです。

## ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

特に思い出に残っているのは卓球、同じ部屋での生活、ドン・キホーテに行ったことです。まず、卓球をしたことがとても印象に残っています。韓国の中学生と一緒に卓球をして、試合をしたり、応援し合ったりして、みんなとても盛り上がりました。言葉が全部通じなくても、卓球を通して自然に笑うことができました。あまり話すことができなかった人とも、卓球をきっかけに仲良くなれたことが嬉しかったです。次に、韓国の中学生と同じ部屋で4泊したことも、とても大きな思い出です。活動している時間だけではなく、部屋に戻ってから一緒に過ごすことができました。寝る前にいろいろな話をしたり、くだらないことで笑ったり、好きなものについて話したりして、少しずつお互いのことを知ることができました。一緒に長い時間を過ごしたことで、最初は少し緊張していたのに、だんだん自然に話せるようになりました。ドン・キホーテに行ったことも特に楽しかったです。韓国の中学生と一緒に店内を見て回り、日本の商品を紹介したり、気になったものについて話したりしました。話しながら一緒に買い物できました。また、みんなでバーベキューをしたことも楽しかったです。みんなで協力して食べ物を焼いたりしながら、たくさん話すことができました。外でみんなと一緒に食事をする中で、さらに仲が深まったように感じました。国や文化が違ってても、一緒にご飯を食べたり楽しい時間を過ごしたりすることは、人との距離を縮める大切なことだと感じました。桃狩りでは、韓国の中学生と一緒に桃を選んだり食べたりして、山梨の魅力を知ってもらうことができました。とても、美味しかったです。リニア見学では、日本の技術について一緒に学び、温泉では日本ならではの文化を体験しました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

今回の国際交流を通して、私は韓国の文化だけでなく、コミュニケーションの大切さや、自分の住んでいる山梨県の魅力についても学ぶことができました。最初は韓国の人と話すことに少し緊張して、言葉が通じるか不安でした。だけど、一緒に山梨県のいろいろな場所へ行ったり、桃狩りをしたり、4泊5日の生活を一緒にしたりする中で、少しずつ会話が増えてよかったです。特に印象に残ったのは、言葉が完全に通じなくても、笑顔やジェスチャー、表情などを使うことで気持ちを伝えられたことです。伝わらない時は翻訳を使ったけれど、たくさんお話しできてよかったです。間違えることを恐れずに、自分から話しかけることが大切だと学びました。また、相手の文化や考え方が自分と違っていても、それを否定するのではなく、そういう考え方もあるんだなと理解しようとするのが大切だと思いました。そして、韓国の人に山梨を紹介することで、今まで当たり前だと思っていた山梨の自然や果物なども、外国の人にとっては魅力的なものなのだと気づきました。今回の交流を通して、外国の文化を知るだけでなく、自分の住んでいる地域や日本の文化についてももっと知りたいと思うようになりました。4泊5日という時間を一緒に過ごしたことで、国籍や言葉が違ってても、笑ったり、楽しんだり、同じ体験をしたりすることで人との距離は縮められるのだと実感しました。この経験をこれからの生活にも生かして、外国の人と関わることを怖がらず、積極的にコミュニケーションを取れる人になりたいです。今回の国際交流でできたつながりを大切に、これからも韓国の文化や言葉について学んでいきたいと思いました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

今回の交流会を通して、私はさまざまな力を身に付けたいと思いました。まず、言葉や文化が違う人とも積極的にコミュニケーションを取る力を身に付けたいです。自分から話しかけたり、相手に質問したり、会話を広げたりして、相手との距離を縮められるようになりたいです。また、言葉がうまく通じなかったり、間違えてしまったりすることを恐れずに、新しいことに挑戦する力も身に付けたいです。さらに、相手の文化や考え方を尊重する力も身に付けたいです。自分にとっての当たり前が、相手にとっても当たり前とは限らないので、違いを否定するのではなく、新しい考え方を見つけられたことや、そういう考え方もあるんだなと受け入れられるようになりたいです。そして、相手の話をよく聞き、相手の立場になって考える力も身に付けたいです。今回、韓国の人に山梨の魅力を知ってもらった機会があったことで、自分の住んでいる地域についてももっと深く知り、それを分かりやすく教える力も必要だと感じました。そのため、日本や山梨の文化、歴史、自然などについても積極的に学びたいです。また、韓国や他の国のことも知りたいです。今回の交流をきっかけに、韓国語などの外国語をもっと勉強し、実際の会話の中で使える力も身に付けたいです。交流会が終わったから終わりにするのではなく、これからも韓国の文化や言葉について学び続けたいと思います。そして、国籍や言葉が違ってても、人とのつながりを大切に、相手を思いやりながら行動できる人になりたいです。今回の経験をこれからの生活にも生かし、視野を広げて、さまざまな人と関わるできるようになりたいです。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

駿台中 1 年 No16

氏名 林田琉磨

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟という人たちが、昔の日本と韓国の間でとても大切にされていたということを知りました。浅川兄弟は韓国の文化や朝鮮陶磁に魅了されて収集や研究をしていました。また林業技師として朝鮮の緑化に努めました。これらの研究を通し、韓国の人たちと協力することで深く交流し、親交を深めていたことを学びました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

資料館に行って、昔の兄弟の写真や道具を見ました。昔は言葉の壁や文化の壁など難しいこともあったと思うけれど、それでも韓国のことを大切に想っていたことが伝わってきました。僕も二人のように、国は違っても相手を大切にしたいなと思いました。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

日本と韓国は近くにあるけれど、食べているものや言葉が少しずつ違うのが面白いと思いました。韓国ではトッポギなど辛い物などが日常的に食べられているときいて、日本では辛い物は毎日食べないので違いを感じました。言葉については全く違い、コミュニケーションが難しいと感じましたが、時々発音と意味が似た言葉があったので、親近感がわきました。韓国の中学生は、英語も日本語もとても上手で、学校で習うと聞いて、とてもたくさん勉強をしなければならないことに感心しました。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

二日目の富士山五合目やリニアモーターカーの見学、三日目の桃狩りなど様々なことをやり、その中でも特に思い出として残っているのは4日目の卓球です。グループとしては最終的に負けてしまいましたが、卓球を知っている韓国の人に教えてもらいながら初めてやった卓球で一回でも勝てて嬉しかったです。また韓国の人と一緒に卓球がしたいです。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

最初に挨拶をした時、言葉が通じなかったのは不便だったけど、翻訳アプリなどを通じて意思疎通出来ました。3日もたつと少量の韓国語、英語での意味理解など少しずつできるようになってきました。韓国側も日本の難しい漢字やイントネーションなどを理解し、5日目には日本人じゃないかと疑うほどすらすらしゃべり、日本語での会話ができました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

僕はこの事業を通し、韓国語、理解力、行動力などさまざまなことが身に付きました。最初は自分から話しかけるのが少しはずかしかったけれど、同じ班のユンソンとビョンソンに日本語を少し教えたり、韓国語を教わったり、日本語でのじゃんけんやトランプで遊ぶなど、言葉の壁はあったけれど、楽しい時間を一緒に過ごして、どんどん自分から動いて話すことができたので、勇気を出して行動する力がついたと思います。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

若草中 3年 No17

氏名 安達 もか

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟について、富士川図書館の方からお話を聞き、日本と韓国の歴史について学びました。私はそれまで浅川兄弟について詳しく知らなかったのですが、お話を聞いて、日本と韓国には昔からさまざまなつながりがあったことを知りました。浅川兄弟が韓国で活動していたことや、韓国の人々と関わっていたことを知り、国同士の関係だけではなく、人と人とのつながりも日本と韓国の歴史に関係しているのだと感じました。また、歴史上の人物について、その人がどのような人生を送り、どのような思いで行動していたのかを知ることで、歴史をより身近に感じることができました。今回のお話を聞いたことで、日本と韓国の歴史についてもっと知りたいと思いました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

見学して、実際に資料を見たり、その場所について知ったりすることで、話を聞くだけよりも浅川兄弟について身近に感じることができました。事前にお話を聞いていたため、資料館では「この話は聞いたことがある」と思いながら見学することができ、より興味を持って見ることができました。歴史について学ぶとき、教科書や話を聞くだけではなく、実際に資料を見たり、その人物について詳しく知ったりすることが大切なのだと感じました。また、昔の日本と韓国の関わりについて知することで、今の日本と韓国の交流にもつながっている部分があるのではないかと思います。今回の見学を通して、歴史を知することは、過去の出来事を覚えるだけではなく、今の日本と韓国について考えることにもつながるのだと感じました。

## ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

食事のマナーや学校生活、辛いものに対する感じ方の違いです。韓国の中学生と4泊5日一緒に過ごす中で、日本では当たり前だと思っていたことが韓国では違うことがあると知りました。特に食事のマナーは、日本と韓国で考え方が違う部分があり、とても印象に残りました。また、韓国の人たちが辛い食べ物を食べている様子を見たり、一緒に食事をしたりして、辛いと感じる基準にも違いがあるように感じました。学校生活についても、お互いの制服などについて話すことで、同じ中学生でも国によって違うところがあることを知りました。私は今回の交流をするまで、自分が普段から当たり前だと思っていることは、他の国でも同じように考えられていると思っていました。しかし、文化の違いを実際に知ることによって、「自分にとっての当たり前が、相手にとっても当たり前とは限らない」ということに気づきました。これからは自分と違う文化を見たときに、すぐに変だと決めつけるのではなく、その文化にはどのような意味や理由があるのかを考えたいと思いました。

## ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

特に思い出に残っていることは、1日目の夜のお菓子パーティーと桃狩りです。お菓子パーティーでは、韓国の中学生と楽しく過ごすことができ、養護教諭の先生とも仲を深めることができました。最後に養護教諭の先生からブレスレットをいただいたことも、とても嬉しく、心に残っています。また、桃狩りもとても楽しかったです。私は桃狩りをするのが初めてだったので、初めての桃狩りを韓国の中学生と一緒に経験できたことが嬉しかったです。アイスブレイクで行ったバースデーチェーンなどのゲームも、みんなで楽しむことができました。交流が始まる前は、日本の中学生と韓国の中学生でそれぞれまとまって、そのまま4泊5日が終わってしまうのではないかと考えていました。ですが、最初の休憩時間に、私が話しかけようか迷っていた韓国の中学生から話しかけてくれました。そのことがとても嬉しく、そこから少しずつ話すことができました。お互いの国の学校の制服について話したり、恋愛の話をしたり、カードゲームをしたりして、たくさん思い出を作ることができました。最初は緊張していましたが、最後には別れることが寂しくてみんなで泣いてしまうほど仲良くなれたことが、一番心に残っています。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

韓国の中学生とコミュニケーションをとるために努力したことは、翻訳アプリだけに頼らず、英語やジェスチャーなども使って、自分の伝えたいことを伝えようとしたことです。最初は言葉が通じるか不安で、何を話せばいいのか迷うこともありましたが、しかし、実際に話してみると、お互いの学校のことや好きなこと、恋愛の話など、共通して話せることがたくさんありました。相手のことを知ろうとしながら、自分のことも知ってもらおうとすることで、少しずつ会話を続けることができました。

難しかったことは、自分の思っていることをそのまま伝えることです。日本語なら簡単に説明できることでも、翻訳アプリや英語だけではうまく伝えられないことがありました。そのようなときには、ジェスチャーを使ったり、別の言葉に言い換えたりして、どうすれば伝わるかを考えました。相手も私に伝えようとしてくれていたので、言葉が完璧に通じなくても、お互いに伝えようとすることで楽しく交流できることが分かりました。今回の交流を通して、コミュニケーションでは言葉だけではなく、相手を知ろうとする気持ちや、自分から伝えようとする気持ちも大切なのだと感じました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この事業を通して特に身についたと思う力は、コミュニケーション力です。交流が始まる前は、韓国の中学生と話すことに緊張していて、自分から話しかけることを迷っていました。しかし、最初の休憩時間に韓国の中学生から話しかけてもらったことをきっかけに、少しずつ自分からも話してみようと思えるようになりました。言葉が通じないときには、翻訳アプリや英語、ジェスチャーなどを使い、どうすれば相手に伝わるのかを考えながらコミュニケーションを取りました。また、お互いの国の学校や制服、好きなこと、恋愛の話などについて話すことで、相手のことを知ろうとする事の大切さも学びました。最初は言葉や文化の違いがあることを不安に感じていましたが、4泊5日一緒に過ごす中で、国が違っても一緒に笑ったり楽しんだりできることが分かりました。この経験から、コミュニケーションは言葉を正しく話すことだけではなく、相手に伝えようとする気持ちと、相手を理解しようとする気持ちが大切なのだと学びました。これからも、初めて会う人や自分とは違う考え方を持つ人に対しても、自分から話しかけたり、相手のことを知ろうとしたりすることを大切にしたいです。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

甲陵中 1年 No18

氏名 河野奏祐

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟(伯教・巧)は、日本統治下という厳しい時代にあっても朝鮮の工芸や自然を深く愛し、現地の人々に心から寄り添い続けました。国や時代を超えて相手の文化をありのまま尊重した彼らの生涯は、日韓における相互理解の重要性を現代の私たちに強く示しています。

国や環境が違って、相手の言語や背景を丁寧に知り、対等な立場で尊重しあう姿勢こそが、人と人との真の信頼関係を深める基盤になります。

この思いやりと敬意を忘れない姿勢を、今後の交流でも大切にしていきたいです。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟資料館を見学し、展示された工芸品や資料を通して、浅川巧が朝鮮の文化や現地の人々をどれほど大切にしていたのかが強く伝わってきました。

厳しい時代背景の中でも周囲の意見に流されず、相手の文化の持つ本当の美しさをそのまま認め、真摯に向き合い続けた彼らの深い思いやりの心にとっても胸を打たれました。

国や時代の壁を越えて、互いを尊重し真心のこもった関係を築こうとした彼らの生き方は、現代の私たちが異文化交流を行う上でも非常に大きな学びになると感じています。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

今回の事業を通して、以前家族で韓国料理を食べに行った時の経験を思い出しながら、日本と韓国の食文化の違いに特に印象を受けました。以前食べた韓国料理は、日本のものよりも辛さや風味が本格的で、私でも美味しいと思える料理がある一方で、辛みが強すぎで少し食べにくいものもありました。しかし、そうした食の体験があったからこそ、単なる知識だけでなく五感を通してお互いの食文化の多様性を実感する事ができました。

また、韓国の中学生在が宿泊先で食事を残している姿を見た時に、私が体験した”食べにくさ”を感じているのかな…と思いました。

味の違いを直接知ったからこそ、文化や生活習慣のリアルな違いを肌で感じる事ができ、言葉以上に相手の国を身近に感じるいい機会になりました。

食を通して、互いの違いを認め合い、理解を深める大切さを学びました。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の中学生と一緒に遊んだり、ゲームをしたりして過ごした時間が、一番の思い出です。

最初は言葉の壁があり少し緊張しましたが、一緒に同じゲームを楽しんだり、無邪気に遊んだりする中で、一気に心の距離が縮まりました。

完璧に言葉が通じなくても、同じ瞬間に笑い合ったり夢中になったりできたことが本当に嬉しかったです。

国や言語が違ってても、好きなことや楽しいと感じる感覚は同じなのだと実感しました。言葉を超えて心を通わせ、すぐに打ち解けて友達になれたこの経験は、私にとってかけがえのない宝物です。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

言葉が通じず自分の伝えたいことが上手く伝わらないもどかしさや難しさがありました。

お互いに伝えたい単語がすぐに出てこず、会話が止まってしまいそうになる場面が何度もあったことが特に印象に残っています。

しかし、そこで諦めるのではなく、翻訳アプリを使ったりスマホの画面を見せたりしながら、なんとか伝えようと必死に工夫しました。

また、言葉だけに頼るのではなく、相手の顔をしっかり見て笑顔で大きくうなずく…など、表情や身振り手振りで気持ちを表すことも意識しました。その結果、相手も笑顔で応えてくれるようになり、言葉の壁を乗り越えて気持ちを通わせることができたと感じています。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この事業を通して、文化や考え方の違いを当たり前として捉え、柔軟に対応する「多様性への適応力」が身につきました。

韓国の中学生と過ごす中で、生活習慣の違いや言葉の壁に直面し、時には戸惑うこともありましたが、そうした違いを拒絶するのではなく「お互いを知るための貴重な学びの機会」として、前向きに捉えようと意識して行動しました。

その結果、言葉が十分に伝わらない場面でも諦めずに寄り添い、相手の考えを受け入れる姿勢を保ち続けることが出来ました。

新しい環境や自分とは異なる価値観に対しても臆せず向き合えるようになったことで、自分自身の視野が広がり、大きな成長を実感しています。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

甲陵中 1 年 No19

林 俊太郎

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

#### 浅川 伯教

##### ○朝鮮の美に魅せられた兄

朝鮮古陶磁の釜跡を調査・研究し、その美的価値を日本に広く伝えた。柳宗悦らと共にソウルに「朝鮮民族美術館」を設立しました。

#### 浅川 巧

##### ○朝鮮の心の中に生きた弟

朝鮮総督府の林業技師として荒廃した半島の山の緑化に尽力した。時代を超えて朝鮮の人々と心を通わせ、文化交流の架け橋となりました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

今まで浅川兄弟資料館に行ったこともなく、事前学習会まで資料館の存在も知りませんでした。見学して感じたことは、1900年代前半から韓国の魅力に気付き、日本にその魅力を広めようとした人がいたと知り、とても驚きました。そして、浅川兄弟が日本と韓国を繋いだことは、すごく大きな意味があると感じました。

また、浅川家の家系図を見た時は少し悲しい気持ちになりました。なぜかというと、まだ兄弟が小さかったときにお父さんが亡くなってしまっていたからです。父が亡くなってしまった兄は、家族を引っ張らなければいけないというプレッシャーでいっぱいだったと思うと胸が締め付けられました。浅川兄弟はもっと有名になるべきだと思います。

## ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

私が、特に印象に残っているのは、やはり言語です。なぜかという、言語が違うと伝えたいことがうまく伝わらないため大変苦労しました。けれど、英語を使ったりジェスチャーを使ったりしてコミュニケーションをうまく取れたことが良かったです。

そして、異なる文化としては、食事の際に韓国の友達はお皿を持たなかったのも、文化の違いを感じました。ただ、普段、違う国で文化が異なっているけれども一緒に生活していれば同じ中学生であり、楽しく生活を送ることができました。

## ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

私が特に心に残っている思い出は、4つあります。

### ○1日目の対面式

対面式は5日間一緒に過ごす友達に初めて会い、相手の言語で自己紹介した時は、とても緊張しました。しかし、その後は、新聞紙を使ったゲームをしたり、言葉を使わずに誕生日が早い順の輪を作ったりしていく中で、次第に仲を深めていくことができました。

### ○グループワーク

韓国人の友達は、ユーモアにあふれる文章やイラストを書き、日本人の友達は一人一人、文章の構成を練りながら書くという違いが出ていて、良かったです。

### ○富士山五合目

富士山五合目に行くのが初めてで、いつも家から見ている富士山とは迫力が違いました。

また、韓国人と日本人の友達と一緒に富士山の自然を体感することができました。富士山五合目では、風がすごく強く、また雲がとても速く動いていて、自然の力を感じました。また、お昼ご飯に食べた富士山型のカレーは味も形もとても良かったです。

### ○最後のお別れ

金曜日のホテルの駐車場で最後のお別れをするときに、韓国人の友達が私に向かって日本語で「愛してる」と言ってくれたことがすごく嬉しかったです。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

なかなか思い通りに、思ったことが伝わらなくて苦労したけれど、英語やジェスチャーで伝えることができて良かったです。また、通訳の方の力を借りることでより良いコミュニケーションを取ることができました。また、お互いに思っていることが伝わらず、ポカンとなってしまう時があったけれど、最後には仲良くコミュニケーションを取ることができて良かったです。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

今回の事業をとおして、お互いを認め合う力がついたと思います。理由は、文化や言語、考え方が違う中で「これが韓国の友達の普通の生活なんだな」と認め合うことができたからです。また、世の中には「〇〇人だから」のように国籍だけで差別をする人もいるけれど、そのような考えは必要ないということを今回の経験から学びました。「みんな違ってみんないい」とはこういうことだと今回の事業で知れる機会になりました。

事前説明会で、昨年度は韓国に行き、交互に交流していると聞いたので、来年度は、私が韓国に行って、韓国の文化に触れたいと思いました。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

甲府市立東中 1 年 No. 20

氏名 関根恭輔

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

私は浅川伯教・巧兄弟について学び、日本と韓国の歴史への見方が変わりました。  
日本が韓国を支配していた時代、多くの日本人が現地の文化を見下していました。しかし浅川兄弟は違いました。兄の伯教は韓国の焼き物の美しさに感動し、その魅力を日本に紹介しました。弟の巧は韓国の言葉や服を身に着け、現地の人と同じ目線で生活しました。そして、はげ山に木を植え、豊かな自然を取り戻そうと努力しました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

当時の大変な状況の中で、相手の国の文化を心から尊敬し、現地の人々のために行動することは簡単ではなかったと思います。この歴史から、私は国や言葉が違っても、互いの文化を認め合い、対等な人間として向き合う大切さを学びました。今も続く両国の交流の土台を作った浅川伯教・巧の他国の文化を受け入れようとする姿勢を見習いたいです。将来は他国の文化を受け入れ、広い視野で回りと接していきたいです。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

日本と韓国では、食事の文化に違いがあることが特に印象に残りました。日本では食事のときに一人ひとりのお皿に料理を取り分けることが多いですが、韓国では大皿の料理やおかずをみんなで分け合って食べることが一般的です。また、韓国では年上の人を大切にする考え方があり、食事では目上の人から食べ始めてから箸をつけるなど、礼儀を重んじる習慣があります。同じアジアの国でも、このような文化の違いがあることを知り、とても興味深いと思いました。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の中学生との交流で思い出に残っていることは二つあります。  
一つ目は最初に会った時です。最初に会って早速韓国の中学生と意気投合して仲良くなれたことが一番うれしかったです。二つ目は桃狩りの時です。韓国の中学生と話をしながら食べる桃はすごくおいしかったです。全体的に韓国の中学生と話すことが一番思い出になりました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

言語の部分で努力したことは、身振り手振りをを用いることです。

外国人でも身振り手振りを使えばわかるだろうと思っていましたが、そううまくはいきませんでした。身振り手振りで表現しにくい言葉を会話内で使わなければいけない時もあり、すごく大変でした。会話の中で GOOGLE 翻訳を使う時もあったが、うまくいかないこともありました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力(理由も含めて)

この事業を通して、身に付いた力は、「誰とでも仲良くする力」です。

異文化と交流する点において、僕がこの事業を通して一番重要だと思ったのが「誰かと自分の共通点を見つける」ことです。共通点を見つけることができれば、その共通点について話すことができる。話すことができれば仲良くなれる。仲良くなればその関係はこの後も続くかもしれません。なので、誰でもいいからその人と自分の共通点を見つけてみよう。そう考えるようになりました。実際に班の韓国人の男子 2 人とは 4 日間すごく楽しめたこともあったので、身に付いた力は「誰とでも仲良くする力」がこの事業で一番育ったところだと思います。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

甲府南中 1年 No21

氏名 加藤志弦

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

兄の伯教は朝鮮陶磁に魅了され、弟の巧は植林事業に行っていた。巧は韓国の農業の技術を発達させ、伯教は日本に朝鮮陶磁を紹介したこと。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟は朝鮮人への強い偏見があった時代に、朝鮮の文化を尊重し、美しいと思って大切にしたこと。当時の日本人達とは違う人たちだったんだと感じました。当時は差別が正しいと思っているのが普通だったのに、そんな時でも、兄弟は差別が悪いと思っていたんだなと感じました。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

言葉の違いが一番印象に残っているけど、食事中にスマホを触ってしまうのは日本人となんか似てるなと思いました。

日本人は、大浴場で一緒に入るのに抵抗がないが、大浴場に来る韓国の人が少ない印象だった。でも、同じ部屋の人に理由は聞けなかった。

韓国の人達は食事を済ますのが日本人より早かったように感じた。

バスの中ではみんなスマホを見ていた。日本人よりスマホを持っている人が多かった。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の中学生と宿泊したことが一番思い出に残っていることです。理由は、いつもと違う環境で、初めて会った人と就寝を共にするというのが特別なことだからです。

一番楽しかった場所はホテルで、食事をしたり大浴場に行ったり、他の部屋の人たちと交流したり、グループワークをして交流を深めたりするのが、なんだかんだ言って一番楽しかったです。

でも、BBQ とカリニア見学、ほうとう作りするのも楽しくて、韓国の人たちと行動することで、文化や言語が違ってても、楽しく行動することができたことが思い出に残っています。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

言語の違いが特に印象に残っていて、どうしても理解できない言葉があるから、身振り手振りで自分の伝えたいことを伝えたり、通訳さんを通じて会話したりしました。

トランプという世界共通のカードゲームで遊んだりして、より仲を深めました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

人種差別が悪い事だと思い、それを防ごうと思う力です。世界には色々な人種があるが、それと共に人種差別もあります。元々私は人種差別は悪いことだと思っていたけど、今私はそれを防ごうと思う力が身についたと思います。私は浅川兄弟資料館を見学して、朝鮮人への強い差別があったことがわかりました。その時私は、差別に対してより悪い印象をうけたからです。そして、最初にした目標である、「外国人とのコミュニケーションに活かしたい」にも生かすことができると思います。なぜなら、韓国の人たちと過ごして、言語が違っても話しかけようとする行動力を身につけることができたからです。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

甲府西中 1 年 No. 22

氏名 相模 桃果

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟について学び、日本と韓国には昔から深いつながりがあったことを知りました。特に、今から 100 年ほど前、韓国が日本の統治下に置かれていた時代があったことを知り、現在の日本と韓国の関係だけでは分からない歴史があることを学びました。

そのような時代に、浅川兄弟は朝鮮半島で暮らしながら、朝鮮の文化や美術、自然を深く愛しました。兄の浅川伯教は、朝鮮の陶磁器や民芸品などに興味を持ち、その美しさや価値を見つけて大切にしました。また、弟の浅川巧も朝鮮の文化を大切にし、林業に力を尽くしました。当時、荒れていた山を整えて、松などの木を植えることで森林を守り、朝鮮の自然を大切にしました。

私は、浅川兄弟がただ朝鮮の文化や自然を好きだっただけでなく、その価値を多くの人に知ってもらおうと行動したことを学びました。当時の日本と朝鮮の関係が難しい時代であっても、朝鮮の文化や自然を大切に、守ろうとした日本人がいたことを知りました。浅川兄弟の活動を通して、歴史を学ぶときには国同士の関係だけではなく、その時代に生きた一人一人の人々の考えや行動にも目を向けることが重要だと学びました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

私は、国と国との関係には難しいことがあっても、人と人との交流や、芸術、食べ物、音楽などの文化は、国境を越えて人の心をつなぐことができるのだと感じました。今では、日本で K-POP や韓国ドラマが人気になったり、韓国で日本のアニメや漫画が親しまれたりするなど、日本と韓国の交流が身近になっています。私自身も韓国の文化や音楽に興味があり、今回の学習を通して、今の交流には長い歴史がつながっていることを感じました。

だからこそ、今の日本と韓国の関係だけを見るのではなく、これまでにどのような出来事があったのかを知ることが大切だと思いました。歴史には、立場や考え方の違いから簡単には理解し合えないこともあるかも知れませんが、過去の出来事を知ること、相手の国や文化についてより深く考えることができると感じました。

今回、浅川兄弟について学んだことで、日本と韓国には長い歴史があり、その中には人と人とのつながりもあったことを知りました。これからも日本と韓国の歴史や文化について学び、お互いの違いを知るだけでなく、それぞれの国の良さを理解して、大切にできる人になりたいです。

## ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

日本と韓国の異なる文化について、特に印象に残っているのは、お風呂についてです。私は、温泉が好きなので、交流会で一日一緒に活動した後、「みんなで温泉に入るのが楽しみだな」と思っていたのですが、実際には、同じ班の子たちは温泉を利用しませんでした。韓国では、日本のように温泉やお風呂で湯船につかる習慣が一般的ではないと知り、「同じアジアの国でも、お風呂の入り方にも違いがあるんだな」と驚きました。普段、私が当たり前だと思っていることも、国が違えば当たり前ではないのだと実感しました。

他の班の韓国の子の中には、温泉に入っている子もいました。その子たちは初めて湯船につかったのか、楽しそうに声を上げて、にぎやかに温泉を楽しんでいました。その様子を見て、文化の違いを知るだけでなく、実際に体験してもらうことで、日本の文化を楽しんでもらえることもあるのだと思いました。

今回の経験を通して、文化の違いは「どちらが正しい」というものではなく、それぞれの国の生活や習慣の違いから生まれるものだと感じました。普段は気づかないような小さな違いでも、実際に一緒に過ごしてみると新しい発見がありました。これからも、違いを興味深く感じる気持ちで、韓国の文化についてももっと知りたいと思いました。

## ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の中学生との交流で特に思い出に残っているのは、お互いの言語を使って楽しく会話できたことです。私は独学で韓国語を勉強していますが、簡単な自己紹介以外は、まだ韓国語で話すことができません。そのため、交流会の前は、うまく会話できるかととても不安でした。しかし、実際に一緒に過ごしてみると、「大丈夫？」「待って～」など、知っている韓国語を使ったり、ジェスチャーをしたりすることで、少しずつコミュニケーションを取ることができました。

韓国の子たちも日本語を使って話してくれたり、私の韓国語に笑顔で答えてくれたりしました。短い言葉でも、お互いに「伝えたい」「分かりたい」という気持ちを持って接することで、だんだん距離が縮まり、自然に楽しく話せるようになったことがとてもうれしく、思い出に残りました。

今回の経験をきっかけに、今後も韓国の文化や言葉に興味を持ち、韓国にできた友達との交流を大事にしていきたいです。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

韓国の中学生とコミュニケーションをとるために、私は知っている韓国語をできるだけ使って、自分から話しかけるように努力しました。交流会の前には、「好きなアニメは何ですか？」など、実際の会話で使える韓国語の文章を学んで、少しでも韓国の子たちと話せるように準備しました。実際の交流では、韓国語がすぐに出てこないこともあり、言いたいことをうまく伝えられないのが難しかったです。

それでも、分からないときは表情やジェスチャーを使ったり、日本語や知っている韓国語を組み合わせたりして、何とか伝えようとしました。私の班の韓国の女の子たちは、日本語がとても上手で、日本語で話してくれたり、韓国語を教えてくれたりしたので、楽しく会話することができました。この交流会の経験から、きちんとした文法も大切かもしれないけれど、相手と話したい、伝えたいという気持ちを持って、単語などを組み合わせて、積極的にコミュニケーションを取ることが大切だと思いました。これからも韓国語の勉強を続けて、もっと自信を持って会話できるようになりたいです。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この事業をとおして、特に身についたと思う力は、初めて会う人とも協力して取り組む力と、自分から人と関わる力です。私はもともと人見知りで、普段は仲の良い友達と一緒に行動することが多く、初対面の人に自分から話しかけることが苦手でした。今回も友達と一緒に応募しましたが、参加したのは私一人だったため、最初はとても不安でした。

しかし、学校も学年も違う方々と一緒に韓国の中学生をお迎えして、おもてなしをする中で、少しずつ自分から声をかけて、一緒に活動できるようになりました。また、初めての国際交流で韓国語を実際に使う機会も増えて、交流会前より韓国語が分かるようになりました。言葉や文化が違って、伝えようとする気持ちがあれば仲良くなれることを実感し、韓国の中学生に友達もできました。

交流会が終わった今も、夜ごはんのメニューを報告し合ったりなど、日常の小さな出来事を伝え合っています。以前の私なら、海外の友達とこのような交流ができることは想像もできませんでした。交流会の5日間は、私にとってとても貴重な経験でした。参加する前は不安でしたが、今回の経験ができて本当によかったです。今回身につけた力と自信を、これからの学校生活や新しい人との出会いにも生かしていきたいです。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

山梨大学教育学部附属中 2年 No23

宮崎結菜

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟が朝鮮に渡った時代は、日本統治時代で日本と韓国の関係は複雑であり浅川兄弟が朝鮮の文化や人々を大切にしながら活動することは簡単なことではなかったそうです。そんな時代の中でも浅川兄弟は朝鮮の文化や自然の価値を認め、その魅力を日本に伝えようとしていました。お互いの興味があることについて学び、守ろうとする行動にとっても心を動かされました。

弟の巧さんは、韓国のソウルにお墓があるほどたくさんの人々に慕われていたことがわかりました。今の交流会があるのもこの兄弟のおかげでもあり、まさに日本と韓国の架け橋となっていると感じました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

実際に資料館に行ってみるとインターネットでは調べても出てこないような詳しいことがたくさんありました。そして、二人の足跡などを学芸員の方が説明してくれたおかげで理解が深まりました。

そして、兄の伯教さんが書いた日記が展示されており何十年もの間大切に守られてこの資料館にあることにとっても感動しました。

浅川兄弟が朝鮮民族美術館を設立し朝鮮の文化財を残していったように、浅川兄弟資料館を設立して二人の功績を伝えていくことがすごく素敵だし大切なことだと思います。私はこの兄弟について事前に学習するまで知らなかったし、まだ多くの人にも知られてないと思うのでもっと浅川兄弟のことについて知られるべきだと思います。また、この資料館にもたくさんの人が訪れてほしいと感じました。

## ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

文化について印象に残っていることは、学校の校則です。韓国の中学生の中でピアスを開けている人が何人かいたことがすごく驚きました。気になったので学校にピアスを開けて行ってもいいのか聞いてみると、開けて良い学校もあるし校則ではだめだけど先生は許しているなどということを知りました。

また、メイクをしている人も多く学校に行っているのかも聞いてみると、ほとんどの学校がメイクをして行って良い学校でたくさんの方がしているということを知り、日本との違いを感じました。日本の学校では、ほとんどの中学校はピアスやメイクは禁止されているので少し羨ましいと思いました。

そして、韓国の人は食事を食べ終わるときは少し残すのがマナーだということを本で読みました。実際、私が見た中では残している人が多かったです。本当は直接聞いてみたかったのですが、なんとなく食事のことについては聞きづらかったので聞くことができませんでした。

マナーの違いは日本と韓国では他にもあると思うので、もっと詳しく知りたいと思いました。

## ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

この交流会で思い出に残っていることは、四つあります。

一つ目は、富士山の五合目散策に行ったことです。様々なところを歩き回りながら数の数え方や売店にある物の単語を韓国語で教え合ったり、お互いにお互いの国の難しい発音を言い合うなどのたくさんの話をして一日目よりも仲がさらに深まったように感じました。

二つ目は、ドンキホーテに行ったことです。みんなカゴからあふれるくらいにたくさんお菓子をに入れていて、お店の中をたくさん歩き回ったことがとても楽しかったです。

三つ目は卓球大会です。私は卓球をほぼしたことがなかったのですが、応援されながらすることができてとてもうれしかったし、みんなが戦っている姿をみながら応援したことが楽しかったです。

四つ目はお別れの前日の夜に手紙を書きあったことです。お互いに書いた手紙を読みあわせてすごく悲しかったのですが、最後にふざけた写真をとって大笑いしたことがとても思い出に残っています。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

私はこの交流会に参加する前から韓国について興味があり、少しだけ韓国語を勉強していました。実際に韓国語を使って人と話すことは初めてだったので自分の言いたいことが伝わるか、相手の言ったことを聞き取れるかなどを心配していました。私は自信がないなかで韓国の方はみんな日本語が上手だったので、最初は日本語に頼ってしまいましたが、勇気を持って韓国語で話してみようと思いなるべく韓国語で話すことを意識するようにしました。すると、「韓国語が上手だね」などと褒めてもらえることができてとてもうれしかったです。

また、会話の中で言えなかった単語などは、なるべく自分が知っている単語に置き換えたりしました。そして、持ってきていたノートに韓国の方にハングルを書いてもらい、その横に日本語で意味を書いて忘れずに次の会話にも使えるようにしました。

韓国語は少しでも発音が違うだけで他の意味になってしまうのでたまに伝わらないところもあって難しかったです。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

私はこの事業をとおして、特に積極性とコミュニケーション力が身についたと思います。初対面かつ他国同士で言語も違うという中で会話をするというのは本当に難しいことだと思います。緊張して話しかけに行こうかなども迷いましたが、勇気を出して話しかけ、その後も積極的に話しかけることを意識しました。そのため、会話を広げて盛り上がれたこともとてもうれしかったし、改めて話すことの楽しさを実感できました。

積極的に自分が気になったことを質問したり、日本のことを教えたり、何気ないことでも会話をしたり、時には少しふざけ合ったりなどして仲を深めることができたので積極性とコミュニケーション力が身についたと思います。

この二つをこれからも意識して日々を過ごしていきたいし会話を大切にしていきたいです。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

附属中 1 年 No24

氏名 興石大義

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

今回の交流プログラムを通して、浅川兄弟について初めて詳しく知りました。浅川兄弟は山梨県出身の兄弟で、韓国の文化や美術を大切にし、韓国の人々と交流しながら、韓国の文化を守るために活動したことを知りました。日本と韓国には、過去にさまざまな歴史があり、今でも簡単には考えられない問題があると思います。その中で、浅川兄弟が韓国の文化を尊重し、韓国の人々のために行動したことを知り、とてもすごいことだと思いました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟資料館を見学して、浅川兄弟が韓国の文化を大切にしていたことを、資料や展示を通して具体的に知ることができました。特に印象に残ったのは、日本人でありながら韓国の文化を深く理解し、その価値を多くの人に伝えようとしていたことです。国が違っても、相手の文化を知り、大切にしようとする気持ちは、今の自分たちにも必要なことだと思いました。今回の見学を通して、日本と韓国の歴史についてもっと知りたいと思うようになりました。また、歴史を知ることで、現在の日本と韓国の交流についても、より深く考えられるようになると思いました。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

以前、韓国に実際に行ったとき、日本と韓国には似ているところも多い一方で、生活や食文化などに違いがあることが分かりました。特に印象に残ったのは、韓国の食文化です。日本ではあまり見ない料理や食べ方があり、実際に現地で食べてみることで、韓国の文化を身近に感じることができました。

また、今回の交流では韓国の中学生と話していると、学校生活や普段の過ごし方にも日本とは少し違うところがあることが分かりました。実際に交流する前は、テレビやインターネットで見た情報から韓国のことを想像していました。しかし、韓国の人と交流したことで、「知っているつもり」と「実際に体験すること」は違うと感じました。さらに、スマホをいつでも触っていたり、イヤホンをつけていてとってもインターネットの使い方が日本よりはるかに進んでおり、日本ではみられない風景でした。あと、とても勉強熱心でホテルの部屋で勉強している人もいました。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

一番思い出に残っているのは、韓国の中学生と実際に一緒に活動したことです。最初はお互いに少し緊張していて、どうやって話しかければいいのか分からない場面もありました。しかし、一緒に活動したり、話したりしているうちに少しずつ距離が縮まり、最後には楽しく交流することができました。言葉が完全には通じなくても、一緒に笑ったり、ジェスチャーをしたりすることで気持ちが伝わるのが分かりました。短い期間でしたが、実際に同じ時間を過ごしたことで、韓国の中学生を身近に感じることができました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

韓国の中学生との交流では、言葉の違いが一番難しかったです。自分が伝えたいことがあっても、韓国語でどのように言えばいいのか分からず、うまく伝えられないことがありました。そこで、知っている韓国語を使ったり、簡単な英語を使ったり、ジェスチャーをしたりして、できるだけ自分から伝えようと努力しました。また、翻訳機能なども使いながら会話を続けました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この事業を通して、特に身についたと思う力は、積極的にコミュニケーションをとる力です。今までは、外国の人と話すときに言葉が通じなかったらどうしようと思い、自分から話しかけることをためらってしまうことがありました。しかし、今回の交流では、言葉が違ってても、自分から話しかけたり、ジェスチャーを使ったり、知っている言葉を使ったりすることで、相手とコミュニケーションをとることができました。また、実際に韓国の文化や歴史を学んだことで、違う文化を理解しようとする気持ちも強くなりました。今回の経験をこれで終わらせず、これからも外国の文化や言語に興味を持ち、違う国の人とも積極的に交流していきたいです。そして、相手との違いを否定するのではなく、お互いの文化を理解し、尊重できる人になりたいです。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

南部中 3年 No25

氏名 望月 楓

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟の生きた時代は朝鮮に対する差別意識が強く、民族の文化に触れる人がほとんどいなかったことを知った

また、私は今まで知らなかったけれど、浅川兄弟というのは虐げられる側だった民族の良さを見つけ、それと生涯関わりあうという行動力と徳の深さを持った人たちだということを学んだ。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

映像や職員さんの話を聞いて、浅川兄弟は本当に誠実で人に好かれる人たちだったんだなと思った。反日感情も持たれる事の少ない場所であっても、あれだけ墓や記念碑が大切に守られていることはすごいことだと思った。また、数百か所の窯跡を一つ一つ丁寧に調べ上げていたという事にもびっくりした。

○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

せっさんのやり方やルールが違った

子供もほぼ全員クレジットカードを使っていた

お皿を持っていなかった

Junior high school が伝わらなくてびっくりした。韓国では middle school が一般的なんだと分かった

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の人たちはみんな日本語がとても上手だったこと

日本のアニメの話がたくさんできたこと

高校受験が終わったら連絡してねと LINE を教えてくれたこと

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

使える韓国語はなるべく使って、分かりやすい簡単な日本語を使っていた

それ、あれなどの言葉を使うと、双方の認識にずれが生じて何をテーマに話をしているのかも分からなくなるので難しかった

日本語で言うと分かりづらいものを英訳したら余計わからず話が止まってしまうことがあった

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

お互いの母国語を話さずとも、伝えたい気持ちを伝えれば大抵の会話はできることが分かった。翻訳をなるべく使わなくてすむように相手に伝わりやすい日本語で話したり、身振り手振りを使って話したりすることができるようになった。異国の人も会話できるという自信がついた。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

竜王中 3年 No26

氏名 匂坂悠人

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

日本と韓国の歴史を学び、昔から日本と韓国には様々な関わりがあったことを知りました。特に、当時の日本と朝鮮の関係が今とは大きく違っていたことに驚きました。そのような時代に浅川兄弟が朝鮮で生活し、現地の文化や芸術に興味を持っていたことも分かりました。また、浅川兄弟は朝鮮の工芸品を集めるだけではなく、どのように作られているのかを調べたり、朝鮮の人々の生活や伝統についても記録したりしていました。資料館には当時の写真や資料が展示されており、浅川兄弟が長い時間をかけて調査や研究を行っていたことが分かりました。さらに、二人の活動によって、当時の朝鮮の文化や工芸について知ることができる資料が残されていることも分かりました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟が朝鮮の文化を大切にし、朝鮮の人々と深く関わっていたことが分かりました。展示されている陶磁器や写真、資料などを見ることで、教科書だけでは分からない二人の思いや努力を知ることができました。特に、浅川伯教が朝鮮の陶磁器について研究し、浅川巧も朝鮮の自然や文化を大切にしていたことが印象に残りました。また、当時の日本と朝鮮の歴史についても知ることができ、歴史には様々な立場の人がいることを学びました。今回の見学を通して、違う国の文化を理解し、相手の文化を尊重することが大切だと感じられました。

歴史を学ぶときには、昔の出来事を知るだけではなく、なぜそのような出来事が起きたのか、その時代に誰がどのように考えを持っていたのかを考えることも大切だと感じました。また、日本と韓国の歴史を学ぶことで、今の関係では知られない過去の出来事や文化について知ることができました。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

日本と韓国の文化の中で、特に食文化や生活の中にある文化の違いが印象に残っています。食事では、日本は箸を使って食べることが多いですが、韓国では箸だけでなくスプーンもよく使い、ご飯や汁物を食べるときに使い分けています。また、韓国にはミナコムタンという伝統的な牛骨・牛肉スープに、たっぷりのセリを入れた料理など、日本ではあまり見られない料理があり、食事の内容にも違いがあります。さらに、韓国では食事のときに年上の人を敬うことを大切にするなど、食事のマナーにも日本とは異なる食文化があります。

食文化以外にも、韓国では年上の人を敬う文化があり、言葉づかいや挨拶などにもその考え方が表れています。また日本の着物に対して韓国ではハンボクという伝統的な服があり、昔から大切にされていることが知りました。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

最初は、韓国の方と仲良く話せるかが不安で、しっかり言葉が伝わるか心配でしたが、実際に話してみると、不安だった気持ちが楽しい気持ちに変わり、お互いの文化や好きな食べ物、音楽などを話し合ったりしていました。

言葉や文化が違って、お互いに相手のことを知ろうとしなければ、いつまでたっても絆が深めない、知ろうとすることで、忠清北道の方との絆をより深めることが分かりました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

努力したことは、相手に言葉が伝わるように、翻訳機などを使いながらお互いの文化を共有したり、分からない言葉を教えあったりしました。

特に難しかったのが韓国語を喋る時の発音です。日本語とは違って、韓国語は語尾を小さくすることで、より自然で流暢な会話になります。語尾を話し手の態度や状況によって変化させるのがとても難しかったです。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この事業を通して、初めて会う人と関わる時は、言葉が通じるかどうかよりも、自分から相手を知ろうとする気持ちが大切だと学びました。最初は緊張していたけれど、勇気を出して話してみると、だんだん会話が楽しくなり、交流をすることの大切さを実感しました。この経験をこれからの生活にも生かし、さまざまな人と積極的に関わっていきたいです。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

玉穂中 2年 No27

氏名 永田暦

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

- ・伯教さんは朝鮮に行き、白磁を見つけたことを知った。
- ・伯教さんも巧さんも日韓併合という現実を見て知り、ショックを受けながらも朝鮮の人々と関わっていたことを知った。
- ・伯教さんは高麗青磁などのもう価値が認められているものではなく朝鮮の人が水や酒を入れる日常で使う白磁のよさに気づき、新しい価値を見いだしたことを学んだ。
- ・二人とも朝鮮の人々や朝鮮のことが好きだったのだなということを実際に資料を見たりすることで本などだけでは知らない話をきくことで、学ぶことができた。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

- ・もし昔の韓国と同じように自分の住んでいる国が他の国と同じにしろと言われたら嫌だと思った。
- ・芸術のことだけではなく勉強なども学んでいない人があんなにきれいで美しいものをつくれることにおどろいた。
- ・山梨の人が韓国と深く関わっていて、すごい活躍もしていることをあまり知ってもらえていないことを残念に思った。
- ・自分自身もまだ知らないことがたくさんあって日本という国がした悪いことも理解した上で生活していくべきだなと思った。

○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

- ・お皿を持ち上げて食べるか食べないかの違い
- ・出された料理は残した方が感謝を伝えていることになること
- ・じゃんけんのしかたの違いや、日本にはないゲームがあること

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

- ・みんなでお菓子を買って食べたこと。
- ・同じ班の人たちとババ抜きをしたこと。  
ババ抜きとルールがほとんど同じでも呼び方などが違うこともおもしろかった。
- ・ほうとうを作ったことと食べたこと。
- ・5日間だけでこんなにも同じ班の人たちと仲良くなれたことが嬉しかった。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

- ・ほとんど韓国の子が日本語を理解してくれたのであまり困らなかった。
- ・たまに韓国の子がわからない日本語のときに英語や韓国語ではなんと言うのが難しかった。
- ・手振り身振りで伝わることや、翻訳のアプリで話すこともあって楽しかった。

○この事業をとおして、特に身についてと思う力（理由も含めて）

- ・韓国の子と仲良くなったことで韓国のことを他人事ではなく考えられるようになり、今まで以上に身近に感じるようになった。
- ・相手の話をちゃんと聞こうとする姿勢を持てるようになった。
- ・相手のことを知り、わかろうとする力がついたと思う。
- ・自分の国のことや生活を話すことで韓国のことや自分たちの国などのことを知ってもらうことができた。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

勝山中 1年 No28

氏名 小佐野倅成

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟は、日本の統治下だった朝鮮にわたり、当時の名もなき日常の工芸品に宿る美しさを見出して日本に紹介し、日韓の架け橋となった点。浅川兄弟のように身近にある物の価値を気づけることは誰にでもできることではないと思った。これから学べることは身近にある物でも価値があると学べた。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟がいたから今こうやって日韓交流ができていると感じた。そして、とても行動力がある人たちだと感じた。どれだけ韓国を愛していたかがとても良く分かった。朝鮮人は日本のことを嫌いだと思っている中、朝鮮に行くことはとてもすごい人たちだと感じた。普通の人にはできないことをしていたんだなと思った。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

あまり文化の異なることは分かりませんでしたが

- ・18歳以下でもクレジットカードを持てること。
- ・韓国人がみんなスマートフォンを持っていたこと。
- ・みんなの前で自己紹介をするときにも原稿をスマートフォン入れて使っていたこと。
- ・肌がとてもきれいでさすが美容国家だと感じた。本当に男子ですか？と疑問になるくらいお肌がきれいだった。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

最初はあまり仲良くなかった人でも、お風呂場や部屋でのおしゃべりで仲良くなれたこと。韓国のことはあまりよく分からない方けど日韓交流を通して韓国のことが少し分かった気がした。そして桃狩りの時に韓国版の冷えピタをくれたこと。とても冷たくて癒やされた。韓国人の優しさがとてもよく分かった瞬間でした。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

ジェスチャーで伝えたり英語で話したりしていた。難しかったのは、相手のしゃべる速度が速すぎて聞き取りずらかったこと。それでも仲がよくなれたからうれしかった。またいつか会えることを願っています。韓国のことをあまり知らなかったけど、コミュニケーションのおかげで韓国のすごさに気がつけたこと。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

他国の人ともコミュニケーションをうまくとれるようになったこと。なぜなら、分からない言語でもジェスチャーしたりしてできていたから。自分の気持ちを相手に伝えられるようになったこと。この事業に参加する前は、自分の気持ちを相手に伝えることは苦手だったから、成長できた4泊5日だったと思う。参加してとてもよかった。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

勝山中 1 年 No29

氏名 ベッカー大輝

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟とは韓国が日本の支配下であり植民地であった時代に活躍した人です。

浅川のりたかは韓国の陶磁器に魅せられ生涯を研究に没頭した人です。かれは700か所ぐらいの陶磁器の窯跡を研究して韓国の陶磁器を時系列でまとめました。

浅川巧は林業技師で韓国の戦争で緑がなくなってしまった山に木を植え、韓国に緑を戻した人物として知られています。彼は韓国人の心の中に生きた日本人とも言われています。他にも彼は露天埋蔵法を発明した人です。彼は1931年わずか40歳で肺炎になり韓国の地で眠りました

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

朝川兄弟資料館を見学する前はなぜ浅川のりたかは韓国の陶磁器に生涯をかけて研究したことがどうしても解せなかったのですが、資料館を見学して館長の説明や展示品を見ることでまだ完全には理解できませんでしたが、なんとなく分かったような気がしました。

また、浅川兄弟の勇気に感動しました。韓国が日本の植民地であった中、唯一日本に対抗した人たちの中の二人が浅川兄弟です。国に対抗することはとても勇気がいることだと思います。浅川兄弟はすごい勇気の持ち主なのだなと深く思いました。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

特に印象に残っているのは、自己紹介やグループワークの発表の時と会計の時です。

対面式を行った時に自己紹介がありましたが、日本の学生たちが紙の原稿用紙を使っているのに対して韓国の学生たちは自己紹介文の原稿をスマホに保存して行っていました。このことから韓国の学生たちにとってスマホは生活に欠かせなくより身近なものなのだなと思ったことが印象に残りました。

2日目に行った富士山の五合目やドンキーホーテの時などにしたお会計では日本の学生たちはかみの紙幣を使っていたのですが、韓国の学生たちはクレジットカードを使用していました。調べてみると韓国では満12歳以上であれば保護者の同意を得て本人名義のクレジットカードが使える、未成年でもクレジットカードが使えるそうでした。他にも対面式で学校のカバンにスクイーズを入れて持ってきてもいいと聞いたときに衝撃を受けたのも印象に残っています。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

韓国の学生たちと交流して特に思い出に残ったことは言語の壁がある中、グループワークなどで一緒に協力できたことや、部屋の中で言語交換したり、久遠寺でおみくじを引いたりしたことです。

グループワークでは、私の班には活発で意欲的な人がたくさんいて、八人全員がペンを持って取り組むことができたので、楽しく頑張れたことが思い出に残っています。

また、部屋の中では英語を使ってお互いの言語を交換して習得し合っていました。翻訳機も駆使して、お互いの言語を理解しあったことも思い出に残っています。

久遠寺では一緒におみくじを引きました。韓国の中学生の方々は日本語を読むことができないので英語で翻訳したり、一緒に結果を比較し合ったりしたことが思い出に残っています。

韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

韓国の学生たちとコミュニケーションをとるため家で韓国語の習得を頑張ってみました実践できませんでした。そのため韓国の学生たちとのコミュニケーションは憤るばかりでした。グループワークでも通訳のスタッフに手伝ってもらいながらも、なかなか自分の思いをうまく伝えることが難しかったのですが、韓国の学生たちの方も日本語で話してくれたり、英語でコミュニケーションを図ってくれたりしました。

部屋の中で韓国の学生たちと言語交換することで私もいくらか韓国語を習得することができました。おかげで韓国の学生たちと韓国語であいさつをかわせるようになり、会話ができるようになりました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

特に身に付いたと思う力は時間を意識する力と積極的にコミュニケーションする能力です。

今回の交流事業はかなり時間に余裕がなかったので、常に腕時計や予定表を見て時間をチェックし行動することができたので時間を意識できるようになりました。

おたがい、国の文化も違い、言語も違う中で意思疎通をすることは困難でした。ですが、共通の言語を使ったり、翻訳機を駆使したりすることで自分の伝えたいことや会話ができるようになりました。このことから言語が違っていても積極的に会話しに行くことができる力がついたと思います。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

塩山中 2年 No30

氏名 川口 琉花

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

私が浅川巧と伯教の兄弟について知って一番心に残ったのは、二人とも国が違う韓国の人々を深く愛し、その文化や心を大切にしたことです。兄の伯教は韓国の美術や工芸の美しさにいち早く気づき、弟の巧は朝鮮の山や自然を守るために植林に尽力しました。巧は韓国の言葉や文化とともに生き、亡くなった今でも韓国の墓地に眠っています。当時、日本と韓国の間には厳しい歴史がありましたが、二人は政治や立場を超えて、一人の人間として韓国の人々と心を通わせました。このことから、国や文化が違っていても、お互いを尊重し大切に思い合う気持ちが一番大切だと学びました。私もこれからの交流では、相手の持つ文化への理解を深め、理解しようとする心を忘れたくないです。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

私は浅川伯教・巧兄弟資料館を見学して、お互いの国の文化を尊重し、心から分かり合おうとした兄弟の姿にとっても感動しました。兄の伯教は朝鮮の美術や文化の美しさに魅せられ、弟の巧は荒れていた現地の山を緑にする林業に尽力しながら、韓国の人々や文化を深く愛しました。展示されている写真や資料を見て、二人が現地の人とまっすぐに向き合い、温かい信頼関係を築いていたことが伝わってきました。国や言葉が違っていても、相手を敬い、理解しようとする気持ちがあれば、本当の意味で心を通わせることができるのだと学びました。私も二人を見習って、身の回りにあるさまざまな違いや文化を大切にできる人になりたいです。

### ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

日本と韓国の異なる文化について、特に印象に残っているのは食文化の違いです。私はこれまで、お茶碗を持ち上げて、お皿は手を添えて食べることや、ご飯をできるだけ残さないことは世界共通だと思っていました。しかし、韓国は日本とは逆で、お茶碗を持ち上げず、お皿に手を添えてもおらず、ご飯を少し残すことがマナーであることを知り、とても驚きました。また、韓国ではスプーンを使うことが一般的なことに驚きましたが、韓国の中学生がお箸をととても上手に使っていてすごいなと思いました。

「ほうとう」を食べているとき、私がオイキムチをおいしく食べていると、韓国の友達が「本場のオイキムチはこんな感じだよ。韓国のオイキムチはもっと辛いよ」と言って、とても赤いオイキムチの写真を見せてくれました。文化の違いに驚きつつも、食を通じて楽しく交流できた忘れられない思い出になりました。

### ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

私が韓国の中学生と交流して特に思い出に残っていることは、同じ班の子や違う班の子たちとさまざまな活動を通して、韓国の文化を教えてもらったり、日本のことを伝えたりできたことです。はじめはとても緊張していましたが、韓国の中学生が、私の自己紹介での「韓国のアイドルグループが好き」という言葉を覚えていて、「私もそのグループが好きだよ」と話しかけてくれたことで緊張が和らぎました。また、飼っている動物の話題で盛り上がり、自宅で飼っている動物や韓国の街中の写真を見せてくれました。宿泊中はトランプを使って韓国の遊び方を教えてもらい、楽しく交流することができました。「韓国語をもっと勉強しておけばよかった」と思う場面が何度もありましたが、韓国の生徒たちがとても流暢に日本語を話しているのを見て、本当にすごいと思いました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

韓国の中学生とコミュニケーションをとるために、私は相手の国の言葉をできるだけ聞いて覚えるよう努力しました。韓国の中学生が日本語を聞いてくれたとき、私たちの国について知ろうとしてくれているのだと感じ、とても嬉しく思いました。そのため、バスの中や宿泊中など、積極的に相手の国の言葉を聞くようにしました。

韓国語は日本語とは違い、一つの単語が長かったり、日本語ではあまり使わない発音がたくさんあったりして難しかったですが、日本語と韓国語で発音が同じ言葉がいくつかあって、驚きました。また、日本で流行っているものが韓国でも人気があることがわかり、共通の話題として話しやすかったです。好きな食べ物、好きなアイドルグループなどを伝え合うことで、意外な共通点が見つかり、会話を広げることができました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

私は今回の事業を通して、初対面の人とのコミュニケーションを取る力を身につけることができたと思います。勇気を出して相手の名前を呼び、その時思いつくことを笑顔で話しかけてみました。すると、その場の雰囲気が和らぎ、多くの人と楽しく会話を弾ませることができ、バスでの移動中や活動の中で、一緒に過ごす仲間が増えていきました。自分から質問をし、心を開いて歩み寄ることで、さっきまでは知らない人だった相手ともすぐに打ち解けられるのだと強く実感しました。今回の経験を通して培った積極性を大切に、これからの学校生活でも自分から進んで周りの人に話しかけ、コミュニケーションを取っていきたいと思います。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

塩山中 3年 No31

氏名 小野夢奈

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

浅川兄弟は、日本が朝鮮を植民地支配している時代の朝鮮半島に兄の浅川伯教さんは1913年に渡り、その1年後の1914年に弟の巧さんも朝鮮に渡りました。朝鮮の国や文化を理解しようと人々に溶け込みながら暮らす中で、朝鮮陶磁器や工芸品の美に深く魅了され、その美しさを世に広く紹介しました。

兄の伯教さんは朝鮮白磁の美しさに魅せられ、朝鮮古陶磁の研究で、朝鮮半島の窯跡700箇所余りを訪ね歩き、膨大な数の陶片を拾い集めました。35年もの年月をかけて採集した陶片から朝鮮陶磁器の歴史を体系づけ、朝鮮陶磁器史をまとめ「朝鮮古陶磁の神様」と称されました。朝鮮の芸術文化を深く理解し、その調査・研究に尽力しました。

弟の巧さんは林業技師として朝鮮で働いていました。朝鮮の荒れていた森林を取り戻したいという思いから荒れた山に木を植え、森林を守る活動を行いました。さらに、朝鮮の人々と積極的に交流し、文化や暮らしを深く理解し大事にして、朝鮮の人々から信頼されました。亡くなった後もその功績は高く評価されています。弟の巧さんのお墓は韓国にあり、韓国の人々によって永く守られてきました。

このように朝鮮の文化や人々、暮らしを愛した浅川兄弟は、日韓の架け橋となり、今の日本と韓国の交流にも深くつながっていると学びました。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟資料館にはまず、資料館の方が年譜を使って浅川兄弟の軌跡や韓国へ渡った過程などを説明してくださいました。次に、展示されている資料について説明を受けました。中でも私が心に残っていることは、弟の巧さんの日記についてです。兄の伯教さんが韓国を離れて日本に戻る際、弟の巧さんの日記をキム・ソンジンさんに預けました。キム・ソンジンさんは朝鮮戦争で避難するときも、「命の次に大切なもの」として守り抜いたというお話を聴き、とても感動しました。

そして展示物には、兄の浅川伯教さんが朝鮮半島の窯跡700箇所を訪ね歩いたときの陶片や弟の浅川巧さんの日記、ジオラマ、朝鮮民族美術館などの貴重な資料が展示されていました。朝鮮民族美術館で、昔の人々が使っていた日用品を実際に見ることができて貴重な経験でした。

韓国の文化と暮らしを愛した浅川兄弟の生涯をかけて残した功績を実際に目で見て、二人の朝鮮への思いが伝わってきました。浅川兄弟と韓国の歴史や人々の暮らしを知っていく中で、もっと韓国の歴史や文化、人々の暮らしについて知りたいとより関心を持ちました。人とのつながりを深めるためには、文化や暮らしを理解し、尊重することが大切だと感じました。

## ○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

私が日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていることは、学校生活の違いと食事の仕方の違いです。

学校生活の違いで印象に残っていることが2つあります。1つ目は定期テストの受け方です。日本の定期テストの受け方は、自分の教室で番号順になって受けています。しかし、韓国ではカンニングを防ぐために1つの教室に学年バラバラで集まり、定期テストを受けるという違いがあることを知りとても驚きました。2つ目は放課後の過ごし方です。私の通っている学校では、必ず部活に入らなくてはならないという決まりがあり、夏は下校が6時ですが、韓国では部活に入るのは自由で、放課後には友達と遊んでも良いという点が少し羨ましく感じました。

食事の仕方の違いで印象に残ったことは、食事をするときのマナーです。日本では食事をするとき、食器を手を持って食べるというマナーがあります。ですが韓国では、食器を持たずにテーブルに置いたまま食べることがマナーで、手に食器を持って食べてしまうとマナー違反になってしまうという日本とは真逆のマナーであることに驚きました。食器を持たずに置いたまま食べる理由は、金属でできているため重いことと、熱が伝わりやすく熱いからということに納得しました。

## ○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

私が韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていることは、まず2日目の富士山五合目に行ったことです。私自身も富士山五合目に行ったことが初めてで間近で富士山を見られたことやビュースポットで班のみんなと写真を撮れたことが嬉しく、バスの中でも富士山について会話が弾んだからです。

それから、4日目のグループ対抗卓球大会です。グループみんなでお互いに応援しあってより仲が深まったと感じたからです。みんなで楽しく卓球ができて良かったです。決勝戦までできずに終わってしまったけど、とても良い思い出になりました。最後にお揃いのTシャツを着て写真撮影ができて嬉しかったです。

中でも一番の思い出は、グループワークで班のみんなで協力して1つのものを作り上げ、発表したことです。お互いに意見を出し合ってテーマを決め、とても素敵な作品が仕上がりました。また、発表に向けて練習したり、8班オリジナルの挨拶を取り入れたりして、8班らしく明るく発表できて最後まで楽しく過ごせました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

私が韓国の中学生とコミュニケーションをとるために努力したことは、対面式での自己紹介を韓国語で言ったことと、日常生活で使う言葉を覚えて、韓国語で言うように意識してみたことです。他にも英語を交えて会話してみたり、日本の言葉を少し教えたりしたことです。また、身振り手振りを使って表現しました。韓国の中学生も少し日本語を話すこともできたので、日本語で会話をするときには、相手が聞き取りやすいようにはっきりとゆっくりと話すように心がけました。

私がコミュニケーションをとる中で難しかったことは、最初は緊張と不安から自分から積極的に話しかけることができなかったことです。特にグループワークで韓国語が聞き取れず、戸惑ってスムーズに会話が進められず沈黙があったり、作業に取り掛かるのが遅くなったりしたことです。自分が伝えたいことが上手く伝わらなかったり、自分の考えを同じ班の人に詳しく伝えることができなかったりして時間がかかってしまうということもありました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

この交流事業をとおして特に身についたと思う力は、自分から先を見通して行動したり、積極的に話しかけたりする積極性と行動に移す力です。違う学校の人たちや韓国の中学生と交流していく中で、最初は内向的な性格が出てしまい、思い通りに行きませんでした。ですが、一緒に過ごしていくうちに自分から相手のことを知ろうと歩み寄り、韓国の中学生と一緒に過ごして楽しかったと思ってもらえるように、たくさん話かけたからです。また、行動に遅れが出ないように常に時間を見ながら行動したりして過ごせたと思うからです。

さらに、班長という班のみんなを引っ張る役目を果たしたことで、コミュニケーション能力や責任感も以前に比べて身についたと思います。グループワークで一人ひとりの意見を聞いたり、みんなが出した意見をまとめたり、自分がしっかりして、やらなければと気持ちに変化が出てきたからです。

今回の交流事業に参加して、今までの自分の殻を破り、目標である自律に向かって成長できたと思うので、参加して本当に良かったと思います。

## 山梨・忠清北道 中学生国際交流事業 事後レポート

城南中 2年 No32

氏名 安 昇孝

### ○浅川兄弟（日本と韓国の歴史）について学んだこと

韓国人の味方に付き日本人と言う立場にも構わず、韓国人と同じ立場で色々と成し遂げた。韓国と日本の架け橋のような存在であると思った。

僕もそうやって他の人を思い同じ立場から意見を述べれる人になりたいと思った。

### ○浅川兄弟資料館を見学して感じたこと

浅川兄弟が何を成し遂げたことについて細く書いてており、他にも浅川兄弟の日常生活の造形を分かりやすく表現していた。

時には他の文化を味わいながら暮らすと、その文化の歴史が知れてもっと知りたいと思った。

○日本と韓国の異なる文化について特に印象に残っていること

まず思ったのは服装です。韓国はチョゴリと言った少し着物に似たもので、色はピンクや黄色と言った。蛍光色のような目に映りやすいような色合いが多いです。直線的なデザインで、体型に問わず自由に着用できるところで、色合いは少し暗めなものが多いです。

○韓国の中学生との交流で特に思い出に残っていること

バスの中で日本の早口と韓国の早口をして、韓国人の学生は下にカタカナで表記してもらい日本人の学生はローマ字を表記しお互い気を使いつつ楽しみました。

○韓国の中学生とコミュニケーションとるために努力したことや難しかったこと  
(特に言語の部分)

なかなか伝わらず苦戦しましたが、自分は簡単な単語を混ぜ伝わりやすく工夫しました。

○この事業をとおして、特に身についたと思う力（理由も含めて）

言語は違って人なので諦めず挑戦・工夫をしていたらいつか伝わることに気づき僕は諦めず希望を持つ忍耐力を得れたと思った。